

ROHM
SEMICONDUCTOR

ROHM Group Innovation Report 2013

持続可能な社会を実現するために私たちが常に心がけていること

編集方針

本レポート発行の目的

ロームは、50年後のあるべき姿「NEXT50」の実現に努めています。これは、製品品質と経営品質の「革新 (innovation)」を通じて持続可能な社会の実現に貢献していく、ということです。そこで、この目標に向かっての進捗をステークホルダーの皆さまに報告し、ロームグループへの理解を深めていただくために「Innovation Report」を2012年度から発行しています。なお、ロームは、2001年度から「環境報告書」を発行し、2007年度からは「CSRレポート」に改めて2011年度まで発行しました。本レポートは、これらをさらに発展させたものです。

報告対象組織

ローム株式会社およびロームグループ各社
(国内・海外関係会社)

報告対象期間

2012年度(2012年4月1日～2013年3月31日)
一部、この期間前後の事象・取り組みも報告しています。

発行時期

2013年6月
(次回:2014年6月予定 前回:2012年6月)

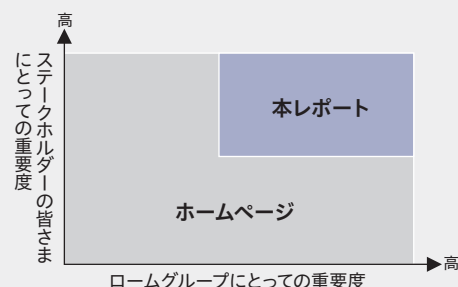
参考にしたガイドラインなど

- ・GRI「サステナビリティレポートガイドライン 第3.1版」
- ・財団法人日本規格協会「ISO26000:2010」
- ・環境省「環境報告ガイドライン2007年度版」
- ・電子業界行動規範(EICC) Ver.4.0

他の報告媒体との関係

■CSR情報について

ホームページには「CSRへの取り組み」として、本レポートに掲載していない情報も掲載しています。また、環境保全に関する詳細情報も「環境データブック(PDF)」として掲載しています。本レポートとの関係は下図のとおりです。



■業績・財務情報について

法定の各種報告書のほか、「半期ごとの報告書」「アニュアルレポート」を発行し、これらのPDFをホームページにも掲載しています。

企業情報

<http://www.rohm.co.jp/web/japan/about-rohm>

CSRへの取り組み

<http://micro.rohm.com/jp/csr/index.html>

株主・投資家情報

<http://www.rohm.co.jp/web/japan/investor-relations>

目次

ROHM Group Innovation Report 2013

編集方針／目次 1

企業目的・方針 2

トップメッセージ 3

Product Quality Innovation

製品品質の革新 6

汎用、個別半導体の
技術革新 7

4つの成長エンジン
(戦略製品) 8

次世代技術の開発 12

Management Quality Innovation

経営品質の革新 14

組織統治 15

人権／労働慣行 19

環境 21

公正な事業慣行 23

消費者課題
(お客さまへの対応) 25

コミュニティへの参画
および発展 27

CSRの目標・計画と実績 31

会社情報 33



ロームが組み入れられているSRI(社会的責任投資)インデックス



FTSE4Good Indexes Series



Ethibel Sustainability Index



MS-SRI

ロームは、社会から信頼され、期待される企業であるために、創業当初から掲げている企業目的をすべての社員に浸透させています。

企業目的

われわれは、つねに品質を第一とする。
いかなる困難があろうとも、
良い商品を国の内外へ永続かつ大量に供給し、
文化の進歩向上に貢献することを目的とする。

さらにこの企業目的を達成するための方針が定められており、事業活動の指針となっています。

経営基本方針

社内一体となって、品質保証活動の徹底化を図り、適正な利潤を確保する。
世界をリードする商品をつくるために、あらゆる部門の固有技術を高め、もって企業の発展を期する。
健全かつ安定な生活を確保し、豊かな人間性と知性をみがき、もって社会に貢献する。
広く有能なる人材を求め、育成し、企業の恒久的な繁栄の礎とする。

品質管理基本方針

1. 社内標準化を全社的に推進し、データによる管理体制を確立する。
2. 総合的かつ継続的な調査活動を行い、新技術、新製品の開発に努める。
3. 企業活動のあらゆる分野において、統計的方法を積極的に活用する。
4. すべての工程において、品質保証の体制を確立する。
5. つねに生産方式の近代化を図り、製品のコスト低減に努める。
6. 材料、半成品の購入に際しては、契約によって納入者に品質保証をさせること。

教育訓練基本目標

1. 経営者、管理者、監督者、一般従業員たるを問わず、絶えず新しい知識の吸収に努め、広い視野に立って科学的に判断のできる人を育成する。
2. 知識と経験を生かし、その道の第一人者としての仕事に徹する人を育成する。
3. 逆境にあっても、つねに活路を見出し、積極的に目的を貫く人を育成する。
4. 全体の個であることに徹し、チームワークとしての成果を優先する人を育成する。

教育訓練基本方針

1. 全従業員は、あらゆる機会をとらえて自己の啓発に努力しなければならない。
2. あらゆる指導的立場にある者は、いかなるときも模範となる行動態度を自ら示さなければならない。
3. 教育訓練は、直接上司が日常業務を通じて行うものを主体とし、あわせて職場外教育訓練を実施する。
4. 各階層の長は、部下を正しく評価し、効果的な教育訓練を計画的かつ継続的に行う。
5. 各階層の長の評価は、部下に対する教育訓練の効果の程度によって行われることを原則とする。

創業以来、情報化社会の進展や価値観の多様化など、企業を取り巻く環境は変化していますが、これらの方針は不変かつ、事業活動の原動力となっています。

『われわれは、つねに品質を第一とする…』 この企業目的は、これまでも、 これからも、いつまでも変わらない ロームのDNAです

ロームは1958年、当時としては画期的に小型化された抵抗器のメーカーとして産声を上げました。1967年には半導体事業に参入するとともに日本企業で初めてシリコンバレーに半導体会社を設立しました。以来、50年以上にわたる企業活動において挑戦を繰り返してきました。

この間、社内外の環境は大きく変化しましたが、社員一人ひとりの心のなかには、高い品質を追求し、一人ひとりのお客さまが求められる納期に製品を供給することで社会に貢献するという強い思いがありました。常に企業目的の言葉の意味を理解し、かつ個々の使命とし、時には拠所とする

ことによって、幾多の困難も乗り越えることができたのです。

今、われわれを取り巻く環境は大きく変化し、企業活動の考え方もCSRを中心に変革の時を迎えています。しかし、われわれにとっては、決して新しい考え方ではありません。創業当時より常に使命としてきた「企業目的」「経営基本方針」の実践を通じて、グループ全体での結束を固め、多様なステークホルダーからの要望に対しチャレンジを続けることが、サステナブル(持続可能)な社会の発展に対し寄与することであると考えています。

ロームは2011年5月に国連グローバル・コンパクト(UNGC)に加盟しました。さらに、社会的責任に関する国際規格である「ISO26000」を手引きとして、バリューチェーン全体を見渡してCSRの重点課題を析出し、取り組みテーマ、計画、目標を設定することでグローバルなCSRマネジメント体制を構築しています。



国連グローバル・コンパクト(UNGC)とは企業をはじめとする組織体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって持続可能な発展を実現することを目指した国際的なイニシアティブ。UNGCを支持する企業は、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野にわたる10原則を実現することが求められます。

4つの成長エンジンを中心に 高品質で革新的な製品が 新たな価値を創出します

ロームは2008年の創立50周年を機に、50年後のあるべき姿を見据えた中長期戦略として「NEXT50」を打ち出し、その中で4つの成長エンジン「LSIシナジー戦略」「パワーデバイス戦略」「LED戦略」「センサネットワーク戦略」を掲げました。これらは今、社会に求められている省エネや安全で快適な生活を実現するキーデバイスと呼べるものであり、まさにCSV(Creating Shared Value)を実践する製品群です。

「LSIシナジー戦略」においては、アナログ技術に強みを持つロームとデジタル技術を得意とするラピスセミコンダクタがシナジーによって新たな価値を創造することを目指しています。その中心となるのが電源やモータ駆動に使用されるアナログパワーICで、あらゆる電子機器の消費電力削減に重要な役割を担っています。協業を継続しているインテル様と開発した次世代タブレット用CPU向け電源ICもその一例です。

「パワーデバイス戦略」においては、世界最先端を走るパワーデバイス技術とLSIによる制御技術、そしてこれらを組み合わせるモジュール技術という3つの技術を融合し、高効率な電力変換を実現するパワー半導体の開発を推進しています。特に、従来のSi(シリコン)と比べて大幅

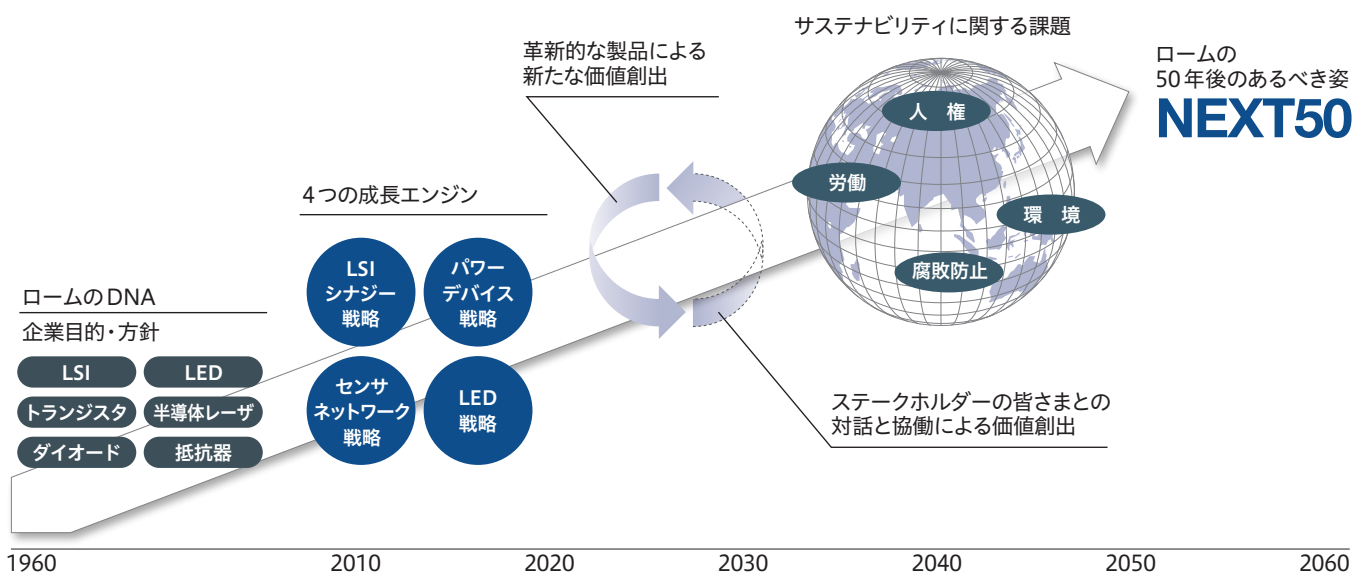
な省エネ化・小型化が可能なSiC(シリコンカーバイド)を材料とするパワーデバイスの開発に力を注いでおり、2012年には世界で初めて量産に成功した”フルSiC”パワーモジュールをはじめ、SiCの新製品を次々に発表しました。産業機器や太陽光発電システム、エアコン、UPS(無停電電源装置)など、さまざまな分野で活用が進んでおり、社会全体の省エネ化に寄与するものと考えています。

「LED戦略」においては、LED素子からドライバIC、人や光を検知する各種センサ、そして業界トップクラスの省エネ電源モジュールを組み合わせたLED照明を提供することにより、人と社会にやさしい環境づくりに貢献しています。

「センサネットワーク戦略」においては、スマートフォンやセキュリティシステム、さらには医療機器など、さまざまな用途で需要が拡大しているセンサ市場のニーズに豊富なラインアップでこたえています。

さらにセンサネットワークの構築に向けた取り組みも強化し、2012年10月には、次世代無線通信規格推進団体「エンオーシャンアライアンス」の主幹メンバーに就任しました。今後、HEMS(Home Energy Management System)、BEMS(Building Energy Management System)など新市場への展開も図り、安全で快適な生活の実現に貢献してまいります。

また、既存製品分野においても多様化するお客さまや社会の要求に対して、付加価値の高い製品開発を進めて



います。

スマートフォンのような電子機器は省エネ性能が求められる一方で高機能化が劇的に進み、半導体・電子部品に対する小型化要求が高まっています。ロームグループでは、新工法や新材料の採用、技術融合により、世界一小さな電子部品群(抵抗器やトランジスタ、ダイオードなど)を開発し、そのニーズにおこたえています。

今後もあらゆる分野において常識を打ち破る発想やアプローチで製品開発を続けていきたいと思えます。

経営品質と製品品質を高め、サステナビリティに関する課題を解決することを目指しています

お客さまをはじめとする世界中のステークホルダーの皆さまから選ばれる企業となるためには、高品質で革新的な価値を持つ製品を提供することが求められます。そのため、世界中に広がるサステナビリティに関する課題を解決していくために「経営品質」と「製品品質」を高めていく必要があります。

「経営品質」を高めるため、2011年6月に「CSR委員会」を設けるとともに、社長直轄組織として「CSR室」を設置しました。さらに2012年6月にはロームグループの主要な国内外生産会社20社それぞれにCSR推進委員会を立ち上げるとともに責任者を任命し、グローバルなCSRマネジメントを実行していくための体制を整備しました。

また、昨今、多くの電子機器メーカーは、サプライヤーが電子業界行動規範(EICC)などのCSRに関する基準を満たしているかどうか検証するために「CSR監査」を実施しています。

ロームグループでは、これら外部からの監査の受審に加えて、2012年からロームグループ全体のEICCへの適合状況を自己検証するCSRの内部監査を開始しています。

「製品品質」への取り組みとして、ロームグループでは、「垂直統合」つまり開発から製造までを一貫してグループ内で行うスタイルを取っています。これは、品質を何よりも優先するという当社のマインドの象徴ともいえます。

ウエハのインゴット引き上げから完成品に至るまでのあらゆる工程で高い品質を作り込むことにより、確実な

トレーサビリティを実現します。

さらにQAセンターや営業拠点を世界各国に配置してグローバルなサポート体制を整えており、お客さまの声を製造ラインにフィードバックすることで高品質な体制を築いています。

グループの総力を挙げてお客さまへの安定供給責任を果たします

一方でお客さまの要求納期に対して、安定的かつスピーディーな供給体制を構築することも非常に重要です。垂直統合により、一貫生産できる強みを活かし、あらゆる工程において、PDCA(Plan, Do, Check, Action)のサイクルを回し、サプライチェーンの最適化に常に取り組んでいます。

中でも、2011年に相次いで発生した東日本大震災とタイの洪水は、ロームグループにとっても大きな教訓となりました。2度の災害ではグループの総力を挙げての復旧作業により、想定以上のスピードで供給量を確保することができましたが、多くのお客さまにご迷惑をおかけしました。

ロームグループでは、現在リスク発生を最小限にとどめるとともに、いかなる場合においてもお客さまの要求納期を守る供給体制を維持し、早期の復旧による事業継続を実現するため、組織体制の見直しや全社的なBCP訓練などを実施しています。また、製品供給の面では、万が一の災害などに備えて「多拠点生産」と「在庫管理」を徹底し、安定供給を実現しています。さらに全生産拠点を対象としたリスク診断のサイクルを見直し、地震や洪水などの自然災害はもちろんのこと、あらゆるリスクを徹底的に検証し、対策を進めています。

ロームグループはこれからも「企業目的」「経営基本方針」を遂行し、あらゆる品質を高めるとともに新たなチャレンジを続けることで、社会に貢献してまいります。

2013年6月

Satoshi Sawamura

代表取締役社長 澤村 諭

Product Quality Innovation

製品品質の革新

ロームグループでは「4つの成長エンジン」を設定し、社会的な課題の解決に貢献できる革新的な製品の開発を目指しています。

ロームグループの製品群

IC

メモリ
 アンプ / リニア
 パワーマネジメント
 クロック / タイマ
 スイッチ / マルチプレクサ / ロジック
 データコンバータ
 センサ / MEMS
 LED / LCD ドライバ
 モータ / アクチュエータ ドライバ
 インターフェース
 オーディオ / ビデオ

個別半導体

トランジスタ
 ダイオード
 SiCパワーデバイス

光半導体

LED
 LEDディスプレイ
 半導体レーザ
 光センサ
 IrDA 赤外線通信モジュール
 リモコン受光モジュール

電子部品




抵抗器
 タンタルコンデンサ

モジュール

パワーモジュール
 無線LANモジュール
 コンタクトイメージセンサヘッド
 サーマルプリントヘッド

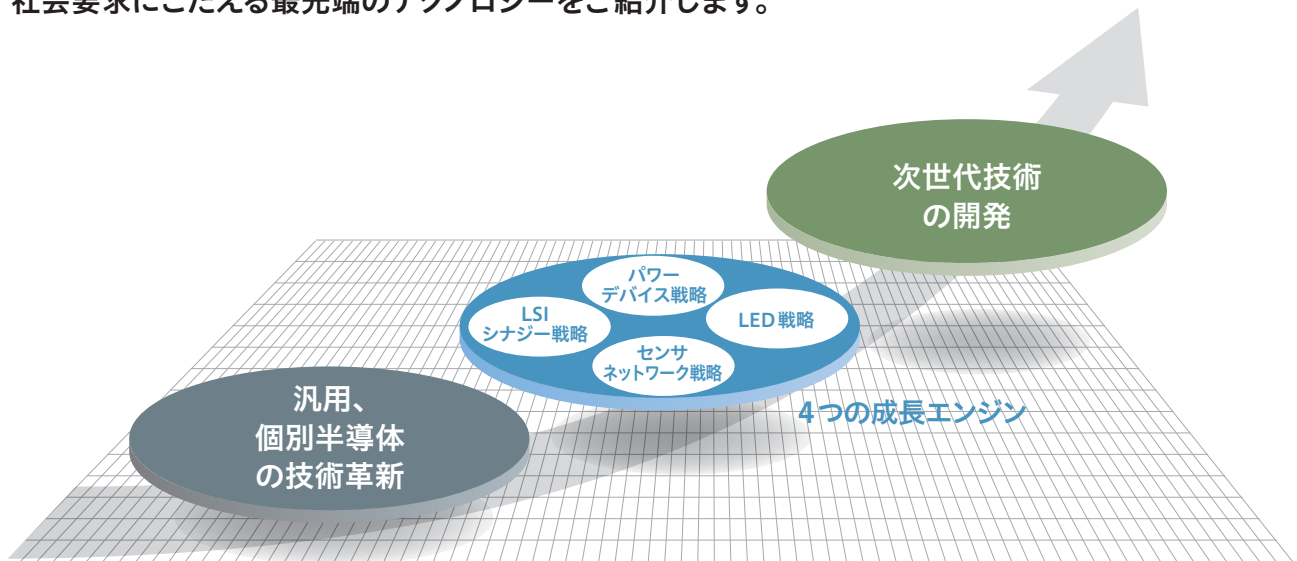
セット製品

LED照明
 バナリスト

- 汎用、個別半導体の技術革新  P.7
- 4つの成長エンジン（戦略製品）  P.8~11
- 次世代技術の開発  P.12~13

時代や社会のニーズにロームの最先端技術でこたえています








ロームグループは、お客さまのさまざまなニーズにこたえることはもちろん、省エネルギーや安全、安心といった多様な社会問題の解決に貢献できる製品を提供しています。汎用製品の技術革新から、戦略製品、そして次世代を担う新技術まで、社会要求にこたえる最先端のテクノロジーをご紹介します。



汎用、個別半導体の技術革新

革新的かつ付加価値の高い製品ラインアップ

スマートフォンやタブレットなど、小型・薄型化が求められる電子機器のニーズにこたえるべく、従来製品でも、新工法や新材料の採用、技術融合を進め、世界最小にチャレンジしています。

<p>世界最小* チップ抵抗器 SMR003</p>  <p>世界最小* 開発中</p> <p>03015サイズ [0.3×0.15 H=0.1]</p>	<p>世界最小* トランジスタ VML0604</p>  <p>世界最小* 開発中</p> <p>0604サイズ [0.6×0.4 H=0.36]</p>	<p>世界最小クラス* 導電性高分子コンデンサ TCSO (Mケース)シリーズ</p>  <p>世界最小* NEW</p> <p>1608サイズ [1.6×0.85 H=0.8]</p>	<p>世界最小* タンタルコンデンサ TCT (Uケース)シリーズ</p>  <p>世界最小*</p> <p>1005サイズ [1.0×0.5 H=0.6]</p>	<p>超小型低背 チップLED PICOLED®シリーズ</p>  <p>世界最小* NEW</p> <p>PICOLED®は ロームの 商標登録です</p> <p>1006サイズ [1.0×0.6 H=0.2]</p>
<p>世界最小*ダイオード HMDパッケージ 1チップで複数のダイオードチップを搭載可能</p>  <p>世界最小* 開発中</p> <p>SMD0402</p> <p>(6チップ搭載) [2.4×0.8 H=0.3] (4チップ搭載) [1.6×0.8 H=0.3] 0402サイズ [0.4×0.2 H=0.12]</p>	<p>小型、低背 1パッケージ電源 基板内に6MHz動作電源ICを 内蔵し超小型化を実現</p>  <p>世界最小* NEW</p> <p>[2.3×2.9 H=1.0 MAX.]</p>	<p>世界最小* CMOS LDO TF2シリーズ</p>  <p>世界最小* 開発中</p> <p>[0.65×0.65 H=0.3]</p>	<p>EEPROM (CSP) 世界最小クラス*をラインアップ</p>  <p>[0.8×0.8 H=0.3]</p>	

※2013年6月調べ

4つの成長エンジン(戦略製品)

4つの成長エンジンとして掲げる「LSIシナジー戦略」、「パワーデバイス戦略」、「LED戦略」、「センサネットワーク戦略」では、次世代製品の開発、新事業の推進など、さまざまな新しいチャレンジを続けています。

LSIシナジー



アナログ技術を得意とするロームは、ラピスセミコンダクタのデジタル技術との融合を積極的に行い、次世代に向けた新製品を続々と生み出しています。その中心となるのが電力変換やモータ駆動に使用されるアナログパワーICです。あらゆる電子機器の消費電力削減に重要な役割を担っています。



アナログ技術

デジタル技術

ソリューションを提案

世界のLSIトップメーカーと協業し、リファレンスビジネスを加速

2008年から協業を継続している インテル様。2013年には次世代タブレット用プロセッサ向け電源ICを共同開発しました。その他にも、さまざまな分野でトップメーカーとの協業体制を構築。スマートフォンやタブレット、産業機器などの市場でリファレンスビジネスを加速しています。

開発状況

2010年9月

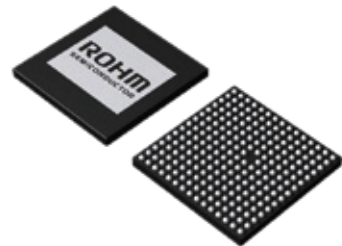
2013年3月

組み込み
機器向けの
開発時間を
短縮する



インテル® Atom™ プロセッサ E600 番台用
チップセット&リファレンスボード

タブレットの
長時間駆動を
支える



インテル® 次世代Atom™ プロセッサ用
低消費電力パワーマネジメントIC



パワーデバイス



ロームグループでは、世界最先端を走るパワーデバイス技術とLSIによる制御技術、そしてこれらを組み合わせたモジュール技術という3つの技術を融合し、高効率な電力変換を実現するパワー半導体の開発を推進しています。特に、従来のSi(シリコン)と比べて大幅な省エネ化・小型化が可能なSiC(シリコンカーバイド)の分野では、業界をリードする開発を進めており、世界で初めて量産に成功した”フルSiC”パワーモジュールをはじめ、2012年にはSiCの新製品を次々に商品化しました。

業界をリードするSiC製品の開発

SiC(シリコンカーバイド)製品は、産業機器や太陽光発電システム、エアコン、UPSなど、さまざまな分野での活用が進んでおり、社会全体の省エネルギー化に貢献しています。

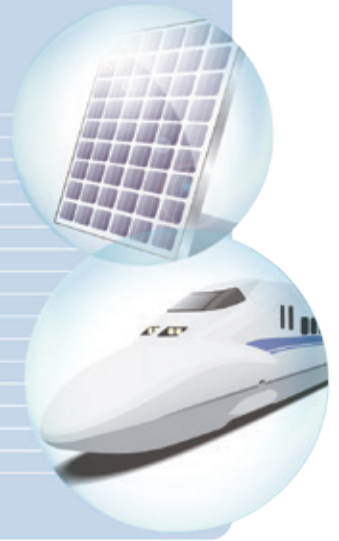


日刊工業新聞社の
2012年
「第55回十大新製品賞」を受賞!

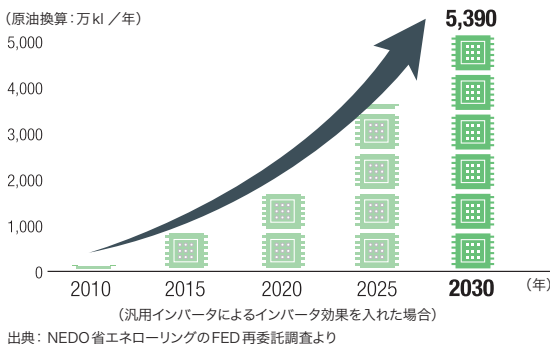
2012年3月
内蔵するパワー半導体素子をすべてSiCで構成した
“フルSiC”パワーモジュール

2012年の開発状況

2012年6月	2012年6月	2012年12月
<p>業界最小の低VFを実現</p> <p>第2世代 SiCショットキーバリアダイオード</p>	<p>世界初! SiC-SBD (ショットキーバリアダイオード) とSiC-MOSFETを1パッケージ化</p> <p>SiC MOSFET</p>	<p>業界初! ショットキーダイオードレスのSiC-MOSモジュール</p> <p>SiC-MOS モジュール</p>



■ 2030年までのSiCデバイス適用による省エネルギー効果予測



SiCで省エネに貢献します。

SiCは、省エネの切り札として電力会社や自動車メーカー、産業機器メーカーなどが大きな期待を寄せている半導体材料です。2012年には、世界で初めて量産に成功した”フルSiC”パワーモジュールをはじめ、SiCの新製品を次々に商品化しました。既に産業機器や太陽光発電システム、エアコン、UPSなど、さまざまな分野での活用も進んでおり、SiCで社会全体の省エネルギー化に貢献してまいります。

ローム株式会社
ディスクリット生産本部
SiCパワーデバイス製造部
副部長
伊野 和英



LED



省エネ・節電需要の高まりにより、オフィスや工場だけでなく、一般家庭でも普及が進むLED照明。ロームグループでは、LED照明を中心に、LED素子からドライバIC、高効率電源モジュールまでLEDのトータルソリューションを提供することで社会の省エネルギー化に貢献しています。

製品品質の革新

LED Lighting

**最適な
コントロール
LEDドライバIC**

無線による
ネットワークを実現
無線通信モジュール

**超省電力
電源モジュール**

高感度
照度センサ

高い信頼と実績
**個別半導体・
電子部品**

豊富な
ラインアップを誇る
LED

一貫した品質管理
生産システム

高度な光学設計技術
シミュレーション

多数のお客さまがロームのLED照明を採用

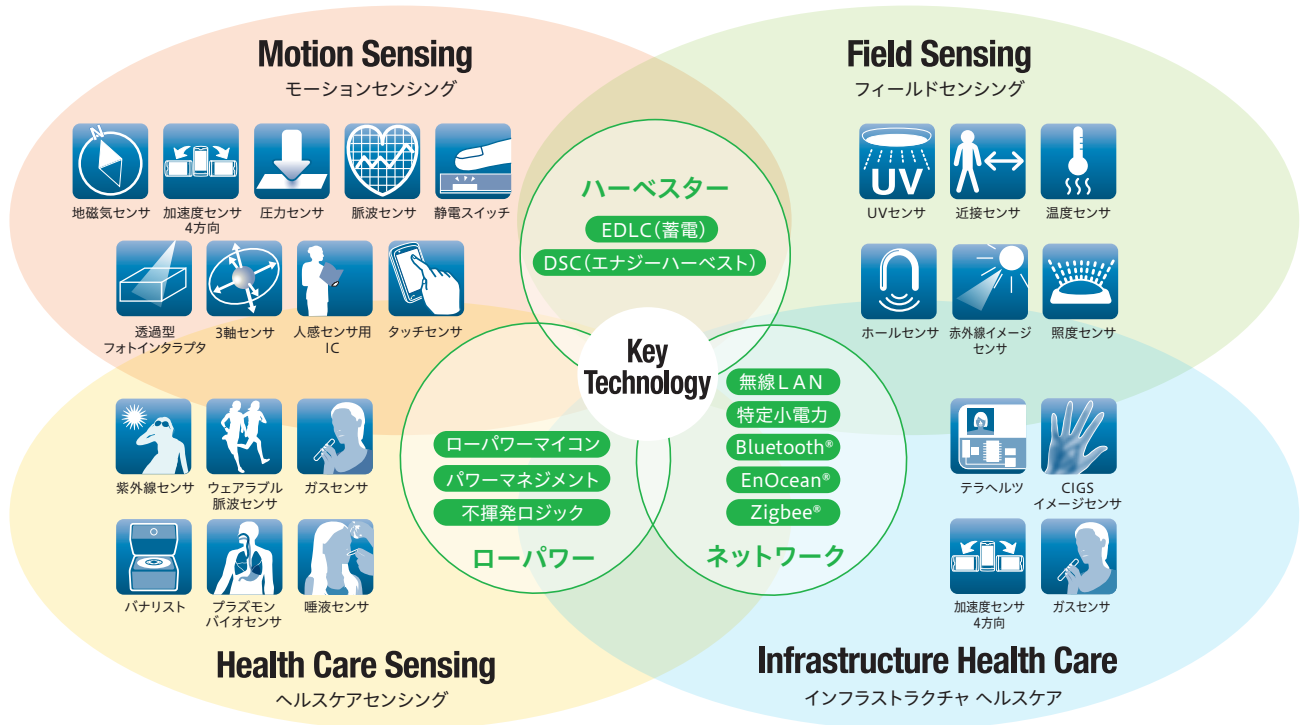
ロームのLED照明はお客さまより高く評価いただき、事業化からわずか数年で店舗、工場、倉庫、大学やオフィスなど、多岐に渡って採用いただいています。なかでも直管形LEDランプは半導体メーカーならではの高い品質をご評価いただいております。市場設置シェアNo.1となっています。今後も省電力で上質なあかりを提供し、皆さまのニーズにこたえていきます。



センサネットワーク

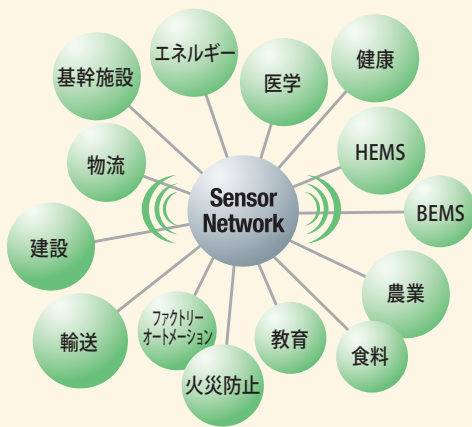


スマートフォンやセキュリティシステム、さらには医療機器など、さまざまな用途で需要が拡大しているセンシングデバイス。ロームグループでは、豊富なセンサラインアップをさらに拡充すべく、2009年に加速度センサの世界的サプライヤであるカイオニクスをグループに迎え、2013年には地磁気センサで世界最高性能を誇る愛知製鋼様と協業体制を構築しました。さらにラピセミコンダクタが得意とするローパワーマイコンや無線技術のほか、次世代無線通信規格「エンオーシャン」を活用することで、あらゆるニーズに対応したセンサネットワークを提供しています。



アジア初! エンオーシャンアライアンスの主幹メンバーに就任

電源・配線・メンテナンス不要なスイッチやセンサの実現が可能になる最先端の無線通信規格「エンオーシャン」。ヨーロッパでは既にビルの照明用スイッチなどで25万棟以上の採用実績があり、その推進団体であるアライアンスには世界のトップメーカー300社が参加しています。ロームは、アジア企業として初めて主幹メンバーに就任しました。



安心・安全な社会に向けたシステムを開発しています。

ロームは各種センサデバイスの研究・開発に力を入れると同時に、センサ信号を無線通信で繋ぐ“センサネットワーク”にも注力しています。ロームグループの省エネルギー技術、無線通信技術などとエンオーシャンのエナジーハーベスタ技術を融合すれば、圧倒的に低消費電力なシステムができると考えております。これらの技術は、メンテナンスが困難な橋梁や道路などインフラのモニタで活躍します。

今後も社会の安全・安心に向けたシステムを開発してまいります。

ローム株式会社
研究開発本部
インキュベーションユニット
副部長
谷内 光治



次世代技術の開発

次世代を見据えた新技術開発においても、材料、設計技術、製造技術、品質向上に至るまでバランスの取れた研究開発活動を展開し、“MORE THAN MOORE[※]”をキーワードに、まったく新しい技術の創造を目指しています。

※ MORE THAN MOORE:「ムーアの法則」の微細化だけでなく、異分野技術の融合、新しい材料を取り入れた多様化、機能革新をすること。

POWER

新材料を積極的に取り入れることで、より一層の高効率・小型化を実現できる新デバイスの研究開発を進めています。

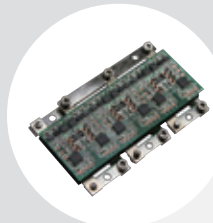
SiC

シリコンカーバイド



業界をリードする開発を進めているSiC（シリコンカーバイド）の分野では、その先進性が認められ、CEATEC AWARD[※]を受賞しました。受賞テーマは、従来に比べ1/10の小型化を実現したSiCパワーモジュールです。業界初となるSiC対応ゲートドライバを搭載するなど、ロームグループの技術力を結集した製品となっています。

※ CEATEC AWARDとは
アジア最大級規模の映像・情報・通信の国際展示会「CEATEC JAPAN」の出展企業の展示品のなかから、優れたイノベーションを発揮した技術・製品・サービス・システムに贈られる賞。



世界最小!
自動車搭載用
SiCパワー
モジュール

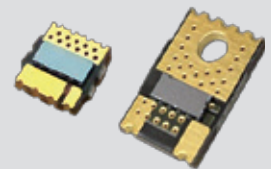


従来より1/10以下の小型化を実現

AlGaN / GaN

ガリウム・ナイトライド

高速スイッチング性に優れているため、これまでSi（シリコン）デバイスでは不可能だった高周波アプリケーションへの活用が期待されています。



ハイライト 軽量と高出力を両立した固体水素源燃料電池を開発

ロームはアクアフェアリー様、京都大学様と、ポータブル発電機として使用できる軽量、コンパクトで高出力な固体水素源燃料電池を共同開発しました。この製品は、水素と酸素が酸化反応する際に生じる電気を利用するもので、環境に優しい発電機です。また、専用のカートリッジ燃料は20年以上の長期保存が可能です。

試作機は、手のひらに乗るスマートフォン用小型タイプ、持ち運びのできるハイブリット高出力タイプ、長時間使用タイプなどがあります。手近にコンセントがないアウトドアレジャー、静音性を活かし、病院、災害時の避難所などの公共の場所、カフェなどで使えます。二酸化炭素や有害ガスなどを一切排出しませんので室内でも安心、安全に使うことができます。



小型タイプ燃料電池(73g、2.5W)



ハイブリット高出力タイプ(7kg[※]、200W)



長時間使用タイプ(3kg[※]、800Whr)

主な特長

1. 軽量
2. 静音
3. エコフレンドリー
4. 燃料は20年以上保存可能

※同容量の鉛蓄電池と比較すると約1/4~1/5の重さを実現

Medical & Health Care

半導体開発・製造ノウハウを活かし、メディカル・ヘルスケアを意識したセンサ技術を研究開発しています。医療現場やヘルスケアの場面で、検査時間の短縮や操作の簡略化のほか、人体に痛みやダメージを与えない「非侵襲検査」にも挑んでいます。

微量血液検査システム「バナリスト(Banalyst)」

2008年から日本で発売している「バナリスト(Banalyst)」は、微細加工技術と μ TAS(マイクロタス)技術を用いた微量血液検査システムで、わずかな血液で数分間のうちに、糖尿病や炎症マーカーなどを測定します。

2012年11月には、イタリアに本社があるA. Menarini Diagnostics様と販売に関する提携契約を結び「B-analyst(ビーアナリスト)」という名称で欧州19カ国で販売を開始しています。



唾液センサ

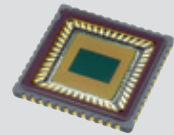
微量の唾液から、ストレスの指標となるホルモンが測定できる「デジタル免疫チップ」など、人体に痛みやダメージを与えずに生体情報を得る「非侵襲検査」の領域にも挑んでいます。



CIGSイメージセンサ

生体内を透過し、かつ安全な近赤外線を検知できるため、医療、食品検査、セキュリティへの応用が期待されています。またシリコンを透過する光も撮像でき、半導体ウエハの検査・監視装置などへの活用も視野に入れ、開発しています。

CEATEC
AWARD
2012



ウェアラブル脈波センサ

脈波計測専用のセンサと、新たに考案したノイズ除去回路により、運動中でもリアルタイムに脈拍数などを測定できるウェアラブル脈波センサを開発しました。

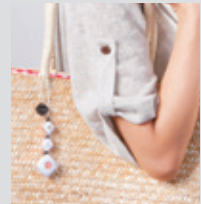
CEATEC
AWARD
2011



紫外線センサ

美容・健康用途を目指して、紫外線のみを検知し、かつUV-AとUV-Bの紫外線を個別に測定できる紫外線センサを開発しています。センサネットワークなどの無線データ通信と組み合わせることで応用も広がります。

CEATEC
AWARD
2011

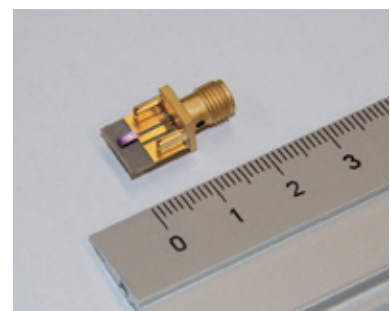


ハイライト テラヘルツイメージングに成功

2013年3月、パイオニア様との共同研究で、世界で初めて小型半導体素子『共鳴トンネルダイオード』を発振・検出に用いたテラヘルツイメージングに成功しました。

テラヘルツ波は光と電波の両方の特性を兼ね備え、X線のように物体内部の透過像の取得や、分子相互作用の検出が可能です。

人体に影響がなく安全なため、医療分野などへの応用に大きな期待が寄せられています。

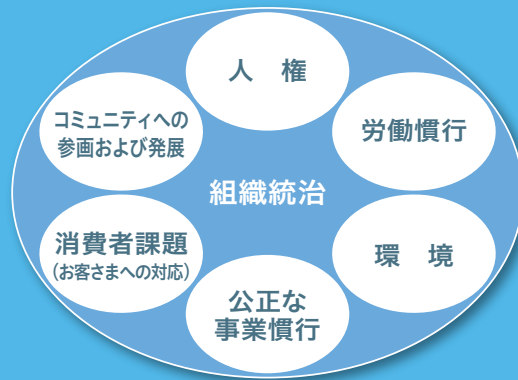


Management Quality Innovation

経営品質の革新

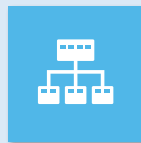
ロームグループではISO26000に基づいたグローバルなCSRマネジメントを目指しています。そのためにCSR推進体制の強化を図るとともに、ISO26000に沿って、バリューチェーンを見渡して重点課題を析出し、取り組みテーマ、計画、目標を設定しています。

ISO26000 7つの中核主題



2012年度取り組みハイライト

組織統治



- ロームグループ20社にCSR推進責任者を任命
- CSR内部監査システムの構築
- ロームグループにおけるCSR教育の実施
- OHSAS18001 (2007) 認証を取得

P.15~

経営品質の革新

組織統治

人権/労働慣行



- ワークライフバランスの推進
- ローム本社18年間休業災害ゼロを達成
- グローバルレベルでの人材交流推進により社員の成長を支援

P.19~

人権/労働慣行

環境



- ローム本社において廃棄物再生資源化率100%を達成
- タイのパトムタニ県より環境優良企業賞を受賞

P.21~

環境

公正な事業慣行



- 社内教育・啓発活動の強化
- サプライチェーン全体でのCSRの浸透・普及

P.23~

公正な事業慣行

消費者課題 (お客さまへの対応)



- 品質保証体制の強化
- 情報セキュリティ認証の取得に向けた取り組み推進

P.25~

消費者課題
(お客さまへの対応)

コミュニティへの参画および発展



- 社会貢献活動
- 災害被災地復興支援活動

P.27~

コミュニティへの
参画および発展

CSRの目標・計画と実績

P.31~

CSRの
目標・計画と実績



コーポレート・ガバナンス体制

取締役会(取締役)

ロームでは、取締役会において取締役がグループ経営に関し、十分な議論の上で的確かつ迅速に意思決定できるよう、その人数を10名以内と定め、その機能を高めています。また、独立した社外取締役2名を選任し、取締役による相互監督機能の強化を図っています。

取締役の役員報酬および役員賞与に関しては、当該期の連結経常利益を評価指標とする業績連動型報酬制度に基づき決定し、取締役の経営責任の明確化に努めています。

監査役会(監査役)

経営の透明性・客観性を確保するため、監査役会を構成する5名の監査役は全員を独立した社外監査役としています。

各監査役は、取締役会などの重要な会議への出席や業務の調査などを通じて、取締役の業務執行を監査しています。また、会計監査人や内部監査部門と連携し、監査精度の向上を図っています。

内部監査部門

内部監査部門として監査室を設置しています。監査室は、ロームグループ全体の業務について、役員・社員との面談や文書・帳票類の査閲などを実施しています。また、監査役や会計監査人とも連携し、社内規定の準拠性、資産の健全性などを監査しています。

CSRマネジメント



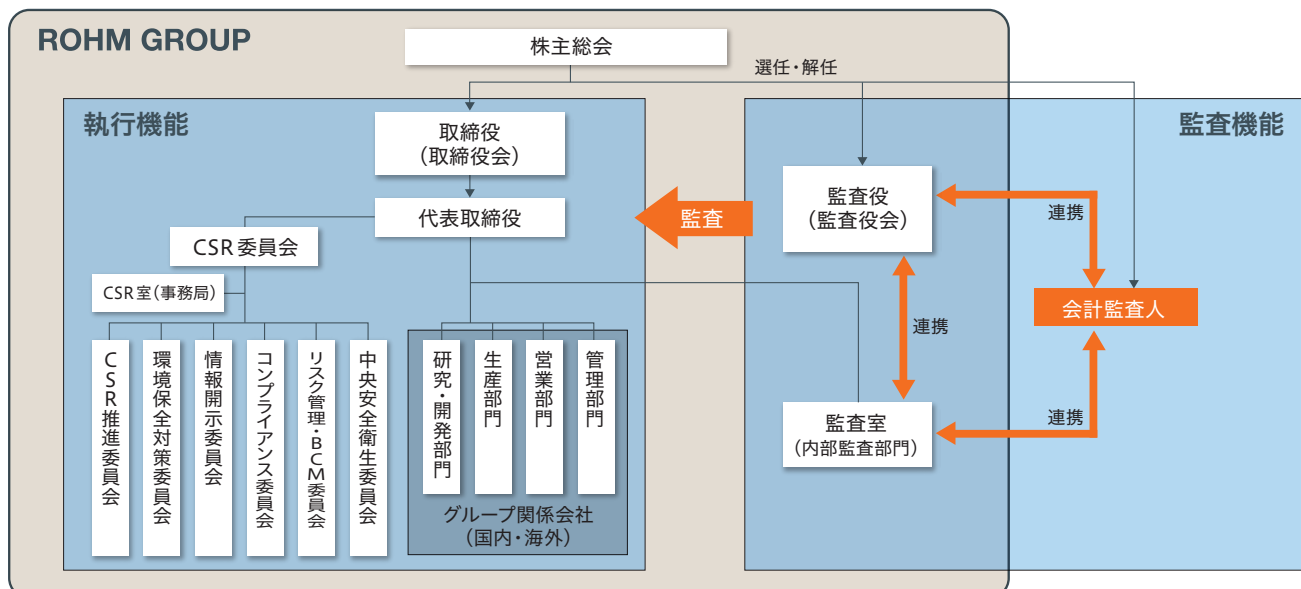
基本的な社会の持続可能な発展への貢献

ロームグループは、創業当時より「企業目的」「経営基本方針」などの目的・方針の実践を通じて、ステークホルダーとの相互信頼関係を構築することで、グループの持続的な発展、社会の健全な発展に貢献してきました。

この「企業目的」「経営基本方針」などを基盤として、CSRの側面から、グローバルな視点で誠実に事業活動を行い、社会の持続的な発展に貢献するために定めたものが「ロームグループCSR基本方針」です。「企業目的」「経営基本方針」などの目的・方針および「ロームグループCSR基本方針」をより確実に実行していくうえでの倫理上の基本ルールを「ロームグループ行動指針」に定めています。

「企業目的」「経営基本方針」などの目的・方針は不変ですが、「ロームグループCSR基本方針」および「ロームグループ

■ コーポレート・ガバナンス体制図



行動指針」は、ステークホルダーの期待にこたえていくために、変化する社会的要請や、国連グローバル・コンパクト(UNGC)、ISO26000、電子業界行動規範(EICC)といった最新の規範などに沿って、進化していきます。

社長直轄の専門組織「CSR室」を設置

ロームでは、2011年6月に社長直轄の組織である「CSR室」を設置しました。また、2012年11月にはグループ会社であるラピスセミコンダクタに「CSR推進室」を設置するなど、CSRの専門組織を通じた活動を展開しています。

CSR委員会の開催

ロームでは、CSRをサステナブル経営の軸と捉えています。長期的な展望と現下の課題、多様なステークホルダーからの要望に対して、迅速な意思決定を図ることを目的として、2011年6月からCSR室を事務局とした「CSR委員会」を設置し定期的に開催しています。

CSR委員会では社長自らが委員長を務め、下部組織として、CSR推進委員会、環境保全対策委員会、情報開示委員会、コンプライアンス委員会、リスク管理・BCM委員会、中央安全衛生委員会を構成し、CSRに関する活動状況や活動計画について報告・審議することで、CSRマネジメントの強化を図っています。

CSR推進委員会に 3つのワーキンググループを新設

ロームでは、2012年7月より、CSR推進委員会に「教育」「文化・交流」「環境」の3つのワーキンググループを新たに設け、活動を開始しました。地域へのモノづくり授業の展開や、ありがと本活動(P.27ご参照)、社員へのボランティア情報の発信など、各ステークホルダーの声に耳を傾けた活動を実施しています。

ロームグループ20社にCSR推進責任者を任命しグローバルなCSRを展開しています。

2012年6月より国内外関係会社20社に「CSR推進責任者」を任命し、企業目的・経営基本方針に基づきCSRをグローバルに展開しています。また、「CSR推進委員会」を毎月開催し、国連グローバル・コンパクト、ISO26000、EICCなどの国際規範や国際基準に照らした検証を実施しています。

今後も、よりよい社会の構築に向けた企業の社会的責任を果たすことを通じ、社会から信頼される企業グループを目指してまいります。

ローム株式会社
CSR室
室長
村井 俊文



■ ロームグループCSR基本方針

われわれは、「企業目的」「経営基本方針」などの目的・方針に則り、グローバルな視点で誠実に事業活動を行い、社会の持続的な発展に貢献します。また、以下のとおりあらゆるステークホルダー(利害関係者)の皆さまと良好な関係を構築し、社会からの信頼を得て、企業の持続的な発展を目指します。

お客さま	われわれは、お客さまに対しては、優れた品質、性能を有する製品と適時的確なサービスを安定的に供給することにより、お客さまの満足と信頼を得ることを目指します。また、お客さまへの誠実な対応を心がけ、製品の安全性を最優先し、それに関する情報の適切な開示に努めています。
お取引先さま	われわれは、お取引先さまに対しては、公正で合理的な基準によってお取引先さまを選定するとともに、お取引先さまとの信頼関係を大切に、対等かつ公正な取引を行い、お互いが繁栄することを目指しています。
社員	われわれは、社員に対しては、安全・快適で働きやすい職場環境を確保するとともに、人間性と個性を尊重し、公正で明るい職場をつくり、一人ひとりの働きがいを高めることを目指しています。
株主・投資家の皆さま	われわれは、株主・投資家の皆さまに対しては、継続的な企業価値の向上を実現させ、適正な利潤を確保することにより、株主・投資家の皆さまへ還元することを目指すとともに、積極的かつ幅広いIR活動を通じて説明責任を果たしています。
社会・地域の皆さま	われわれは、社会・地域の皆さまに対しては、各国、地域社会との交流を深め、それぞれの文化、歴史を尊重するとともに、社会貢献活動や文化・芸術活動などの実施または支援活動を行っています。また、事業活動を通じた地球環境保全活動を積極的に行っています。



CSR監査

お客さまからのCSR監査

多くの電子機器メーカーは、サプライヤーが電子業界行動規範(EICC)などのCSRに関する基準を満たしているかどうかを検証するために「CSR監査」を実施しています。

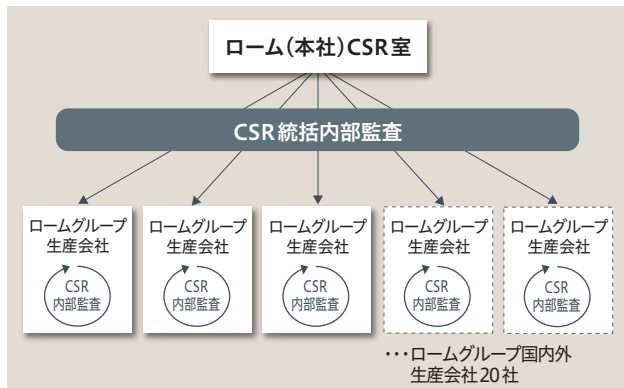
ロームグループでも、こうしたCSR監査を受審しており、お客さまによるCSR監査を自らの経営品質を高めるための重要な機会と位置付けています。これらの監査でご指摘いただいた事項を着実に改善することで、CSRマネジメントのさらなる強化を図っています。

CSR内部監査システムの構築

ロームグループでは、外部からの監査に加えて、2012年度からCSRに関する2つの内部監査を開始しています。

年1回実施する「CSR内部監査」は、主要な国内外生産会社20社がEICCへの適合状況を自己検証する監査です。また、2年に1回、ローム本社のCSR室がこれら国内外生産会社を監査する「CSR統括内部監査」を実施し、各社のCSR内部監査実施状況やEICCへの適合状況などを検証しています。

CSR内部監査とCSR統括内部監査



電子業界行動規範(EICC)とは

主に電子機器関係のメーカーや大手サプライヤーによって構成される団体が策定した規範。「人権・労働」「安全衛生」「環境」「公正取引・倫理」とこれらに関する「マネジメントシステム」からなる。

ステークホルダーの声 株式会社ニコン様

ニコングループはサプライチェーンのCSR活動推進を中期経営計画の重点課題とし、2012年度より主要な調達パートナーへの訪問確認を実施しています。ローム様には2012年10月に訪問し、弊社CSR要請事項につき、その仕組み、運用、マネジメントの観点から現状確認をさせていただきました。確認項目であるコンプライアンスをはじめとする、すべての面で関連法令の確認、責任部門の明確化、文書の規格化など、CSR推進体制を構築され、「CSR委員会」において活動の実態をモニタリングするなど、CSR活動のPDCAを確実に回されていることを確認することが出来ました。また、現在のCSRにおけるグローバルデファクトであるEICC基準による、CSRの社内監査も実施され、ローム様が国内のみならず、海外も意識したCSR活動を実践していることも確認できました。ローム様とは今後も情報交換をさせていただきながら、お互いWin-Winの関係を構築し、ともにサプライチェーンにおけるCSRを推進していけたら幸いです。

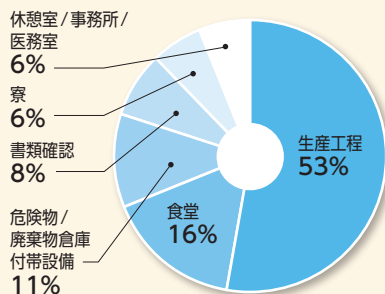
株式会社ニコン
ビジネススタッフセンター
調達・工務部 調達企画課
橋本 卓弥 様



2012年度
CSR統括内部監査
実施拠点数

13 拠点

2012年度CSR統括内部監査指摘場所(分野)



ローム本社CSR室では、ロームグループ各社のCSR内部監査の実施状況を確認するために2年に1回「CSR統括内部監査」を実施しています。2012年度は、国内外生産会社13拠点(国内7拠点、海外6拠点)で実施しました。また、監査で指摘した改善点を水平展開することで、グループ全体のレベルアップを図っています。今後も継続的に監査を実施することでロームグループ全体のCSRマネジメントシステムの強化につなげていきます。



CSR教育・啓発活動

ロームグループにおけるCSR教育の実施

ロームではCSR室が中心となり、社員に対してCSR教育を実施しています。対象は新入社員から新任の管理職まで幅広く、国連グローバル・コンパクトの10原則やISO26000の7つの中核主題、電子業界行動規範(EICC)、紛争鉱物などの理解を深めています。2012年度は、国内外の関係会社においてもCSR教育の取り組みを展開しています。2013年度は国内外すべての関係会社においても実施し今後も継続して活動していきます。

CSReラーニングの実施

ロームでは、これまでもさまざまな教育機会を通じてグループ全体のCSRの浸透に取り組んできましたが、社員一人ひとりのCSRの考え方や取り組みに関する認識をさらに高めるために、2012年11月にローム本社全社員を対象に、社内イントラネットを利用したCSReラーニングを実施しました。

2013年度以降は国内外のグループに拡大するとともに、継続的に実施する予定です。また、2013年度からは新たにCSR月間(10月)を設け、全ロームグループ社員を対象とした階層別研修の実施などを通じ、一層の社内CSR意識の強化に努めます。

国際規格に準拠したマネジメントシステム

OHSAS18001(2007)認証を取得

2012年度、ローム本社では、労働安全衛生マネジメントシステムの中で国際規格と評価されているOHSAS18001(2007)認証を取得しました。

2013年度以降はロームグループへ展開し、労働安全衛生活動のさらなる活性化を進めていきます。

■ マネジメントシステム構築状況

ISO9001, ISO/TS16949

ロームグループ全体でISO9001の認証を取得しており、主要工場はISO/TS16949の認証も取得。

ISO14001

ロームグループ全体でISO14001に準拠したマネジメントシステムを構築。

(ロームと国内関係会社、ROHM Korea Corporationは統合システムによる第三者認証を取得。海外グループ会社はISO14001規格に基づいた自己宣言による環境マネジメントシステムを構築)

ISO27001

ロームが2013年度内の取得を目指して準備中。(P.25ご参照)

OHSAS18001

ロームが2013年3月に取得。
ロームグループ海外生産拠点での取得を目指し活動を開始。



中国大連の拠点にて全社員を対象としたCSR教育を実施



中国大連の生産拠点では、全社員を対象としたCSR研修を実施し、2,000名以上の社員が受講しました。

研修では、国連グローバル・コンパクトやISO26000、EICCなどの規格、贈収賄禁止や知的財産権などの法令遵守、労働時間管理といった制度の説明もあわせて行い、ロームグループ社員としての行動を再認識し、CSRの重要性を改めて理解してもらいました。

ROHM Electronics
Dalian Co., Ltd.
管理部
係長
高 敏





雇用における人権・多様性の尊重

「労働における基本原則及び権利」を尊重

ロームグループは、国際労働機関(ILO)による「労働における基本原則及び権利」を尊重しています。

ロームグループ全体のスタンダードとしては、「人権尊重規定」の中で「強制労働や児童労働の禁止」「機会均等と多様性の尊重、性別・年齢・国籍・人種・民族・信条・宗教・社会的身分および身体障がいを理由とした不当な差別の禁止」「結社の自由および団体交渉の自由」を定め、社員一人ひとりの人権を尊重しています。

多様な人材の積極雇用

ロームでは、学歴や性別の枠を超えて、多様な人材の積極的な採用をグローバルに推進しています。

例えば、女性社員の新卒における採用比率は年々上昇しており、営業職での採用も女性が半数を占めるなど、女性の活躍の場が広がっています。また、外国人留学生についても、毎年積極的に採用しており、本社のグローバル化の一翼を担っています。

ワークライフバランスの推進

ロームでは、結婚、妊娠、出産、育児、介護などのライフイベントを迎えても継続して就業できるよう、制度の整備を図っています。2010年度には、子どもが小学校3年生になるまでの短時間勤務制度と、育児休暇の一部を有給化する制度を導入しました。また、東日本大震災以降ボランティア活動の重要性が見直されていることから、2012年にボランティア休暇・休職制度を導入しました。さらに、育児・介護などによる勤務時間の柔軟化を目指し、始業・終業時間の繰上げ繰下げ制度を導入しました。

ボランティア休暇を取得しました。

私は、“陸前高田市で「希望の花畑」を作り、復興の花を咲かせよう」というボランティアに参加しました。土を掘っていると出てくる瓦礫や瓶、家具の破片などを見つける度に、私にできることがまだまだたくさんあると感じました。また、現場に立って初めてわかる自然災害の怖ろしさ、記憶を風化させずに防災意識を高めていくことの大切さを学びました。このボランティア休暇は、私に素晴らしい経験を与えてくれたと感謝しています。

ローム株式会社
総務部 副主任
山本 恵美子

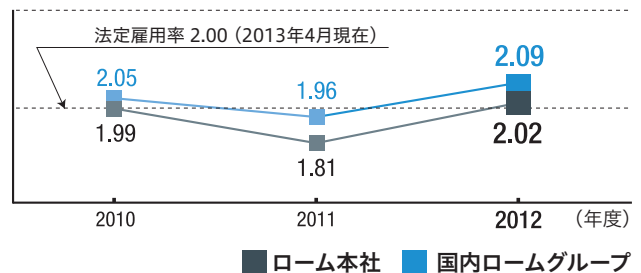


障がい者雇用

国内ロームグループでは、障がい者の方にも十分力を発揮できる職場環境を目指して、障がい者雇用に取り組んでいます。

2012年度の障がい者雇用率は、ロームで2.02%、国内グループ全体では2.09%となっており、ともに法定雇用率以上の雇用率を維持しました。

障がい者雇用率(%)



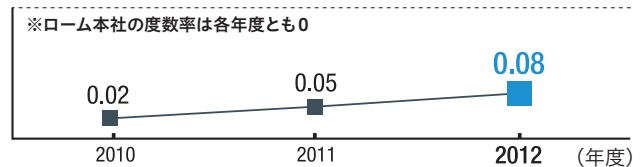
労働安全衛生

ローム本社18年間休業災害ゼロを達成

ロームでは、中央安全衛生委員会のもと、労働災害発生件数ゼロを目標として、「リスクアセスメント」や「社内パトロール」を実施しています。その結果、2012年度まで18年間連続で休業災害ゼロを達成しています。

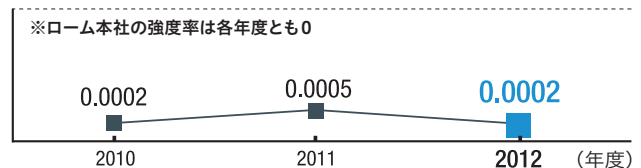
国内外の生産会社においても、労働災害発生件数ゼロを目標として、各社ごとに安全衛生管理に取り組んでいます。また、年1回、「法令遵守チェックシート」を用いて各社の安全衛生関連法などに関する理解度・遵守状況を確認しています。

度数率(ロームグループ)



$$\text{度数率 (災害発生の頻度)} = \frac{\text{労働災害による死傷者数}}{\text{延実労働時間}} \times 1,000,000$$

強度率(ロームグループ)



$$\text{強度率 (災害の重さの程度)} = \frac{\text{延労働損失日数}}{\text{延実労働時間}} \times 1,000$$

■ ご参考…電子部品・デバイス・電子回路製造業平均値 度数率:0.34 / 強度率:0.01
 出典:厚生労働省 平成24年労働災害動向調査
 (事業所調査(事業所規模100人以上)及び総合工業調査)結果の概況より

人材育成

グローバルレベルでの人材交流推進により社員の成長を支援

ロームでは、20代を中心とした若手社員を海外に短期派遣する実務研修制度を2012年度に立ち上げました。2013年度から年間5名程度を海外に派遣し、現地マネージャーのもとで実務経験を積むことで、将来海外と連携して業務を行うために必要な国際的な感覚を早期に身につけることを主旨としています。管理系職種からスタートし、今後は全社的に拡大していくことを検討しています。

また、海外現地法人の社員を一定期間実務研修として受け入れる制度も活発に行っています。2012年度は研究・開発・営業職を中心に、中国・韓国・フィリピンから29名の受け入れを行いました。帰国後はコア人材に成長し、日本と現地をつなぐインターフェースとしての活躍を期待しています。本制度は今後、タイ・マレーシアなどの現地法人からの受け入れも検討しています。

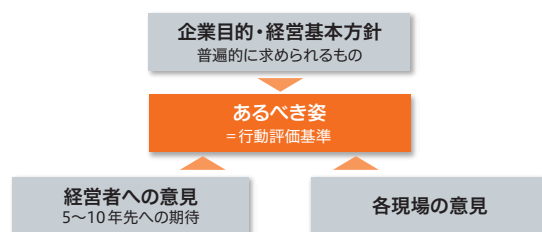
行動評価(求められる人物像の見える化)

ロームが掲げる企業目的や経営基本方針は全社員の業務を進める上での基本となる考え方ですが、社員一人ひとりの仕事内容や立場によって、求められる行動は異なります。

この異なるレベル毎に求める行動基準を「行動評価基準」として明文化しました。

この行動評価基準は、2011年10月より発足したプロジェクトチームがおおよそ半年間かけて検討し、企業目的や経営基本方針などをベースに、経営者の意思や考え、さらには各現場の意見を幅広く集約し、2013年4月より本格的に導入しています。

社員に対して、目指すべき姿(行動)を明確に示すことで効果的な人材育成につなげ、社員自身が高い志を持ってレベルアップできるような環境づくりを進めています。



サプライチェーンにおける人権の尊重

お取引先さまに人権への配慮を要請

ロームは、取引基本契約書に「非人道的、差別的取扱いの禁止」や「強制労働、児童労働の禁止」などの人権尊重条項を規定し、取引基本契約書の締結を通じてお取引先さまに

人権尊重配慮を要請しています。今後は、「ロームグループCSR調達ガイドライン」の配布や「CSR訪問確認」などを通じて、サプライチェーン全体における人権尊重の啓発活動を強力に進めていきます。



フィリピンの労働局と協働しお取引先さまのCSR推進を支援



フィリピンの生産拠点では、地元の労働局による「お取引先さまCSR推進プログラム」に参加して、安全衛生、労働慣行などの管理が難しいお取引先さまに対し、独自の規定と研修を通じて支援しています。今後も地域のお取引先さまに対してCSRを推進してまいります。

ROHM Electronics
Philippines, Inc.
人事部
グループリーダー
**Katrina
Malicdem**





環境目標

環境方針と重点項目

ロームグループは、環境方針として、「われわれは、つねに地球環境に配慮し、人類の健康的な存続と企業の恒久的な繁栄に貢献するものとする」を掲げ、年度ごとに環境目標を定めた上で、環境保全活動を行っています。

重点項目

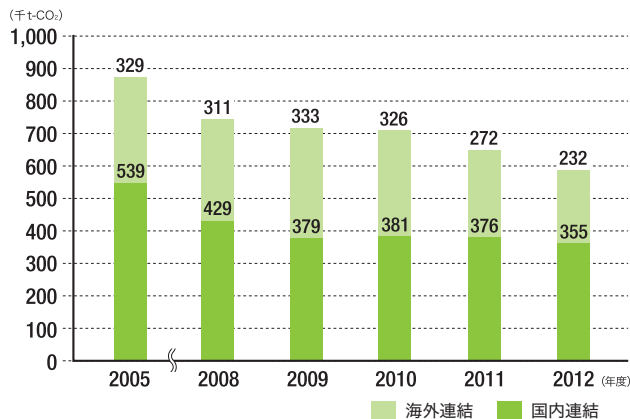
- ① 省エネルギーをすべての企業活動で創意工夫し徹底する。
- ② 環境配慮型製品を開発し、製品のライフサイクルを通して環境負荷の最小化を追求する。
- ③ 材料・副資材の調達や製品の購入は、より環境負荷の少ないものを優先する。
- ④ 国内外の環境法規制や地域協定を遵守する。
- ⑤ 生活環境や地球環境に配慮する社員の育成と関係者の啓発に努める。
- ⑥ 地球環境への貢献や環境情報の適切な開示により、社会との健全な連携を図る。

環境負荷低減活動

CO₂およびその他温室効果ガス排出量削減
(1) CO₂排出量

ロームグループでは、省エネルギー対策を計画的に推進していくため、個々の生産設備・付帯設備の使用電力、オフィスのエネルギーなどの見える化を進め、ムダなエネルギーを削減し、その対策内容を水平展開しています。

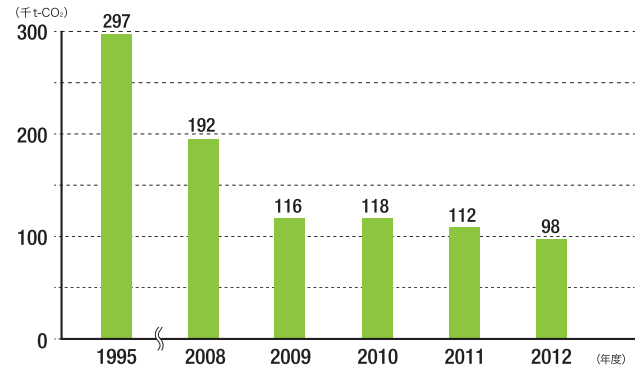
ロームグループのCO₂排出量



(2) 温室効果ガス排出量削減

PFC(パーフルオロカーボン)ガス類はCO₂を大幅に上回る温室効果があるため、ロームグループでもPFCガス類排出量削減に積極的に取り組んでいます。グループ全体に除害設備の設置を進め、2008年に電気・電子業界の目標を2年前倒しで達成した後も、排出量の削減に積極的に取り組んでいます。

ロームグループのPFCガス類排出量

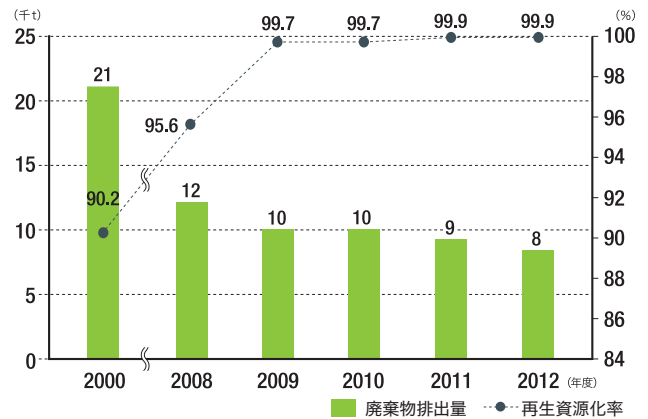


ローム本社において
廃棄物再生資源化率100%を達成

ロームグループでは廃棄物発生量の低減策として、投入する材料・副資材の適正化と歩留向上への取り組み、発生した不要物の有価物化を進めています。

また、グループで再生資源化率を99%以上とするゼロエミッションの実現を目指し、2004年に日本国内のグループ各社がゼロエミッションを達成しました。なお、ローム本社においては、2012年12月以降、特別管理産業廃棄物である感染性廃棄物の再資源化も、100%を達成しています。

ロームグループ廃棄物排出量と再生資源化率(国内拠点)



※2008年度は、グループ会社新規参入により一旦未達となる

製品含有化学物質管理

RoHS指令(特定有害物質使用制限指令)、REACH規則(化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規則)などの環境負荷物質管理に関わる法規制が施行され、より地球環境に配慮した製品づくりが必要となっています。ロームでは、グリーン調達を推進し、調達部品・材料に含有する化学物質の調査精度向上を進めるとともに、社内の化学物質管理体制に重点を置き、禁止物質が「入らない」「使用されない」「出荷されない」ための管理システムを構築し、お客さまに安心して使っていただける製品を供給しています。



環境配慮型製品

現在、お客さま独自の取り組みとして、ハロゲン化合物などの含有禁止要請が増加しています。これに対応し、ロームでは一歩進んだ環境配慮型製品として、ハロゲンフリー製品を開発し、お客さまのニーズにこたえています。

また、ロームでは新製品の開発段階で、その製品が過去の製品と比較してどれだけ環境に貢献しているか、具体的な数値で客観的に評価するため環境貢献度評価票を作成し、環境性能およびCO₂削減性能比較などが行えるシステムを構築しています。



環境貢献度評価票

環境コミュニケーション

環境ポスターコンクール

ロームグループでは、世界環境デーのある6月を環境月間とし、その行事の一環として毎年「ロームグループ環境ポスターコンクール」を実施しています。グループ各社の予選を勝ち抜いたポスターの中から、最優秀賞1点、優秀賞2点を選出し表彰を行っています。



2012年度 最優秀作品

環境学習授業

小学生向け環境学習授業

ロームは、2010年度から京都市内の小学生を対象とした環境学習授業を実施しています。

学校での出前授業では、地球温暖化の仕組みおよび家庭や学校でできる省エネに関する講義に加え、自社製のLEDを使用した実験を提供しています。その中で手動発電機を使ってLEDと豆電球との消費電力を比較するなど、省エネ効果を体感してもらっています。



環境学習授業

タイのパトムタニ県より環境優良企業賞を受賞



2012年、タイの生産拠点ではパトムタニ県から環境優良企業賞を受賞しました。これまで環境マネジメントシステムを構築し、排水や排気、廃棄物について目標を立てて取り組んできました。今後も、地域環境に優しい企業として、活動を継続してまいります。

ROHM Integrated Systems (Thailand) Co.,Ltd.
EMR/ディスクリート
生産本部
副本部長
Ittiphon Boriboon



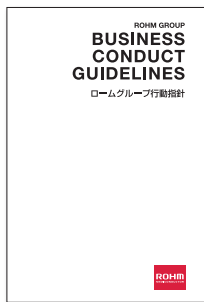


コンプライアンス

体制・行動指針

ロームでは、企業として求められる適切なコンプライアンス体制を確立・維持し、また啓発・推進するため、コンプライアンス委員会を設置し、グループにおけるコンプライアンス違反の防止を図っています。

また、日々の事業活動の中で遵守すべき倫理上の基本的なルールを明らかにした「ロームグループ行動指針」を全社に展開するとともに、研修会や「リーガルラーニング」などの社内教育・啓発活動を通じて、コンプライアンス意識の浸透および向上を図っています。



ロームグループ行動指針

2013年度は、国連グローバル・コンパクト、ISO26000、電子業界行動規範(EICC)の内容を踏まえて行動指針の見直しを行い、改訂版を発行する予定です。

コンプライアンス・ホットライン

ロームでは、コンプライアンス・ホットラインを設置し、非正規社員を含む全社員から国内グループにおけるコンプライアンス違反に関する相談・通報を受け付け、違反の早期把握と適切な対応に努めています。また、海外関係会社でも同様のホットラインを設置しています。

あわせてロームでは、お取引先さま向けのコンプライアンス・ホットラインをロームと海外主要関係会社に設置し、適正な取引の推進に努めています。

腐敗防止(贈収賄防止)の徹底

ロームグループでは、「贈収賄防止管理規定」を制定するとともに、国内外の全関係会社において、腐敗防止の徹底に努めています。また、2012年度はお取引のある代理店さまや仲介業者さまなどに関する腐敗リスクの調査を実施するとともに、社員に対して教育・啓発活動を実施しました。

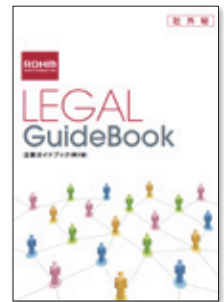
社内教育・啓発活動の強化

ロームでは、新入社員から主任、係長、管理職クラスを対象とした階層ごとのコンプライアンス研修のほか、個人情報保護法、独占禁止法、下請法、金融商品取引法(インサイダー取引防止)、PL法などの個別テーマに関する研修、社員向け「リーガルラーニング」の実施など、社内で継続的にコンプライアンス教育・啓発活動を実施しています。

2012年度は、階層ごとのコンプライアンス研修および個別テーマに関する研修に延べ640名が参加しました。

また、コンプライアンス意識調査の結果もふまえ、社員からのコンプライアンス教育に関するニーズに対応し、国内においては「法務ガイドブック」を、海外においては「Compliance Training Program」を教育ツールとして展開しました。

2012年度には、フェイスブックなどのソーシャルメディアに関し、社員が個人的に利用する機会が増えていることから、利用時の注意事項をまとめた「ソーシャルメディア・ポリシー」を策定し、グループ全社に周知徹底しました。



法務ガイドブック

知的財産

知的財産に関する基本的な考え方

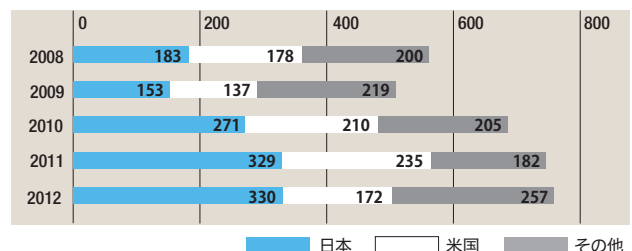
ロームは、お客さまにローム製品を安心して使用していただくため、特許を中心とする知的財産権の適正な確保と運用が不可欠と考え、独自の制度で発明の届出を奨励するとともに国内外に多くの特許出願を行っています。

また、他社の知的財産権を尊重するとともに、お客さまの利益を損なうような他社からの知的財産権の行使に対しては、一体となってお客さまの利益を守っていく体制をつくっています。

特許出願および特許の動向

ロームでは、創出された発明を効率的に活用するため、外国においても積極的に権利化を図っています。特に市場や競合他社などの関係を考慮し、米国以外の国への出願も行っています。また、効率的に特許権などを運用するため、自社・他社ともに製品・事業などの実施が見込めない特許などについては、再評価を行い放棄するなど適切な資産・経費の管理を行っています。

■ 特許取得件数の推移(件)



バリューチェーンにおける社会的責任の推進

サプライチェーン全体でのCSRの浸透・普及

ロームグループでは、電子業界行動規範(EICC)の遵守をはじめとするCSR条項を盛り込んだ「取引基本契約書」の締結および、お取引先さまご自身によるCSR管理状況の自己診断をお取引先さまのご理解を得ながら進めています。

しかしCSRの推進にあたっては、事業プロセスに関わるすべてのお取引先さまを含めたサプライチェーン全体で取り組むことが社会的要請となっています。

そこで今までの活動に加え、「ロームグループCSR調達ガイドライン」の発刊や「CSR訪問確認」などを通じてCSRの考え方や施策の共有化を図り、相互協力しながらサプライチェーン全体への浸透・普及に努めていきます。

紛争鉱物の不使用に向けた取り組み

2010年7月に米国金融改革法が成立。その後2012年8月に米国証券取引委員会(SEC)が最終的に規則として採択し、コンゴ民主共和国およびその近隣周辺地域で産出され武装勢力や反政府組織の資金源となっている紛争鉱物の使用状況などの開示が義務づけられました。ロームグループでは、お取引先さまや業界団体と協力の上、紛争鉱物のサプライチェーン調査を実施しています。今後も、お客さまに安心してローム製品を使用していただけるよう紛争鉱物不使用への取り組みを進めていきます。



巨大地震を想定した訓練を実施



浜松の生産拠点では従来から建屋を免震構造にするなど、さまざまな対策を講じています。2012年6月にはローム(京都)と合同で浜松市内にて震度7の地震発生を想定した訓練を実施しました。今後もお客さまへの供給責任を果たすための取り組みを進めてまいります。

ローム浜松株式会社
管理部
主任
尾崎 雅司



リスクマネジメント・BCM

リスクマネジメント・BCMの体制

ロームでは、2011年6月に、ロームグループのリスク発生を最小限にとどめるとともに、災害などが発生した場合において円滑な事業継続または復旧を図るため、リスク管理委員会とBCM(Business Continuity Management:事業継続マネジメント)推進プロジェクトを統合し、リスク管理・BCM委員会を新たに組織しました。また、各本部が抱える重要リスクについて、従来「半年ごと」に行っていた見直しを「3か月ごと」とし、よりスピーディーにリスクを予防する体制に改善しました。2011年度に発生したタイの洪水の際には、速やかにBCM対策本部を本社に立ち上げ、現地対策本部と連携し、迅速な復旧に努めました。

サプライチェーンBCPの推進

ロームグループでは、「社会の持続可能な発展に貢献する」ために、災害や不測の事態に強いBCP(Business Continuity Plan:事業継続計画)を構築することが重要な課題と考えています。お取引先さまに対しては「お取引先さまによる製品代替生産方法」「クリティカル原材料の調達方法の明確化」「安全在庫の確保」などに関する調査を行ってきました。今後はこの調査結果に基づき、サプライチェーンBCPの一層の強化に努めていきます。



品質の確保

品質第一の追求

ロームグループでは、新製品の開発・設計、工程設計から生産システムの開発、原材料の購入、そしてすべての生産プロセスにおいて細心の注意を払い、かつ営業をはじめ管理部門に至るまで、全社員が「品質第一」を追求し、日々努力しています。

そして、こうした活動を継続するための品質保証体制の維持・運用に努め、社員に対する徹底した教育を実施しています。

品質保証体制の強化

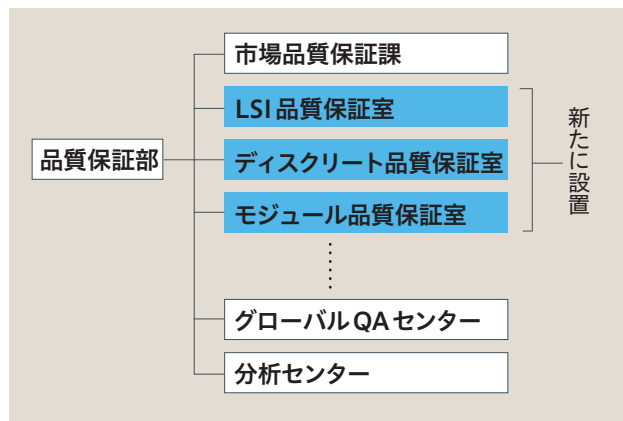
ロームでは、生産部門内に製品（LSI、トランジスタ、LEDなど）ごとの製造部を置き、新製品の開発・設計から日常の品質、コスト、納期についての管理業務を担っています。各製造部内にはQC（品質管理）部門があり、各製品の環境、品質保証全般、および国際規格ISO9001に準拠した品質マネジメントシステムの運用を担っています。

また、社長直轄組織として品質保証部を置き、製造部や本部の枠を越えた全社にかかわる品質マネジメントシステムの構築、情報展開、お客さまの声のフィードバック、および標準化、製造部QC部門の業務監視などにあたっています。

2012年度には、品質保証体制強化のため、これまでの品質保証活動のより一層のレベルアップをめざし、品質保証部内に各製品群に対応した品質保証グループ（品質保証室）を新たに設置しました。

これにより、よりきめ細かなお客さまへの対応とお客さまの視点に立った設計品質のさらなる向上を図るとともに、タイムリーな情報を社内展開することで、お客さまにより一層満足していただけるよう体制の強化を図っています。

品質保証部組織（抜粋）



秘密情報保護

情報セキュリティ意識の向上

ロームでは、お客さまの個人情報に対して、「個人情報の保護に関する法律」および「個人情報の保護に関する経済産業省のガイドライン」などに基づき、お客さまの個人情報の利用目的の明確化、適正な取得、安全かつ厳正な管理に努めています。

さらに、契約に基づいて入手したお客さまの秘密情報を適切に保護するために情報セキュリティポリシーを策定し、セキュリティ事故防止に対する仕組みづくりや、社員に対する意識啓発に取り組んでいます。

意識啓発の一貫として、全社員を対象とした社内イントラネットでの情報セキュリティに関するeラーニングを継続して実施しています。これに際しては、受講状況や理解度を可視化し、受講者に対して適切にフィードバックすることで、全社員の情報セキュリティ意識向上を効果的に進めています。このeラーニングは、2013年度以降も情報環境の変化に即応した内容に刷新しながら、継続的に実施していきます。

なお、2012年度も、お客さまの機密情報・個人情報の漏えい・紛失は発生していません。

情報セキュリティ認証の取得に向けた取り組み推進

ロームでは、現在、ISO27001（情報セキュリティマネジメントシステム）の認証取得に向けた取り組みを進めています。情報セキュリティに関するPDCAサイクルを義務化することで、セキュリティレベルの継続的な向上を担保する試みです。

これにより、情報漏洩の未然防止、不正アクセスへの組織的対応、システム事故への対応力向上を確実に実現して、ステークホルダーの皆さまにとってのビジネスリスクを低減していきます。

デザインセンター

開発・設計の現地化を推進

ロームグループでは、製品を開発・設計するにあたって、常にお客さまの要望をしっかりと把握し、要望にあった製品を迅速に提供することを大切にしています。そのために、世界各地に開発拠点となるデザインセンターを設置し、お客さまに密着したグローバル体制を敷いています。また開発・設計者も現地化することで、より現地のニーズに合わせた新製品を生み出す「真のグローバル化」を推し進めています。

QAセンター

品質問題をあらゆる角度から分析

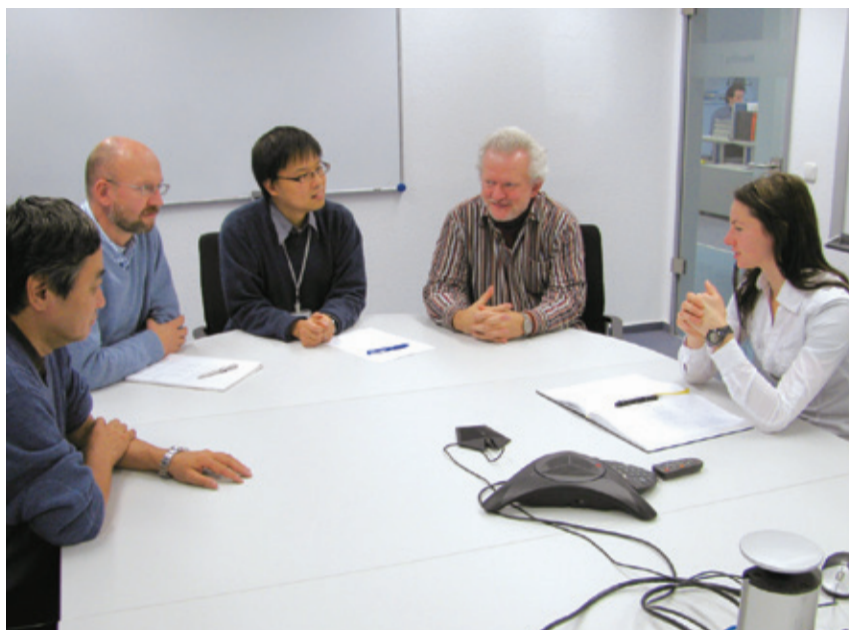
ロームグループでは、常にお客さまに最も近い所で品質対応を行えるよう、海外10カ所に「QA(Quality Assurance: 品質保証)センター」と名づけた各種解析装置を備えた製品解析センターを設置しています。技術に精通したスタッフが地域に密着した対応をさせていただくとともに、このQAセンターで過去の品質問題をあらゆる角度から細かく分析

することで問題の真因を明らかにし、二度と同じ品質問題が起きないように対策を講じています。さらに、これらの真因対策を4M[MAN(人)、MACHINE(設備)、MATERIAL(材料)、METHOD(方法)]の観点から分析し、予防処置を含めた継続的な改善活動を進めています。

■ お客さまに密着したグローバル体制



デザインセンターでのお客さま対応ミーティングの実施



私たちドイツのデュッセルドルフにあるデザインセンターでは、欧州のお客さまにより近い場所でお客さまの要望にこたえています。頻繁に開催するミーティングではお客さまからの新しい要望・問題点について議論し、既存のローム製品向けの新アプリケーションの可能性に関するアイデアを交換します。

ROHM
Semiconductor
GmbH Europe
Design Center
フィールド
アプリケーション
エンジニア
**Adriana
Butur**





社会貢献活動

ロームグループでは「教育」、「文化・交流」、「環境」の3つの分野を中心に社会貢献活動を展開することで、社会の持続的な発展に貢献しています。

教育

ロームの技術を生かし、豊かな人間性と知性を担う次世代を育成する。

文化・交流

地域社会への参加・協力を積極的に行い、地域との交流を深めることにより、地域社会の活性化に努める。

環境

企業市民として、環境の保全を心がけ、自主的かつ積極的に取り組める活動を行う。

災害被災地復興支援活動

被災地支援コンサート

2011年から2012年、ロームと公益財団法人ロームミュージックファンデーション(P.29ご参照)は、東日本大震災で被災された皆さまに、音楽で明るい希望を持っていただきたいという思いから、被災地でのコンサートの開催を支援しました。全国27団体のオーケストラや吹奏楽団により、75カ所85公演が開催され約25,000名の方々に心温まる音楽をお届けしました。



被災地支援コンサート(宮城県石巻市)

ありがとう本活動

2012年12月より、「公益財団法人信頼資本財団」の「ありがとう本」プロジェクトに賛同し、ロームグループとして活動に参加しています。「ありがとう本」は、手元の読まなくなった本、聴かなくなったCD、遊ばなくなったゲーム、観なくなったDVDなどで社会貢献できる寄付プログラムです。

2013年4月時点で国内ロームグループで合計4,000点以上の寄付品が集まり、支援の輪が広がっています。



ありがとう本

ありがとう本ロゴマーク



ローム本社ありがとう本キャンペーン

チャリティミニマラソン

東日本大震災からちょうど1年となる2012年3月11日、東日本大震災とタイ大洪水被災者支援チャリティマラソンがバンコクで開催され、タイの生産拠点の社員44名が参加しました。参加した社員は11kmと3kmのコースをそれぞれ走り、日本とタイの復興を応援しました。



タイでのチャリティマラソンに参加した社員

教育

国内外の大学との産学共同研究

研究機関、大学、異分野企業と協力

ロームは、文化や社会の進歩向上に貢献できる技術を開発するためには、研究機関や大学、異分野企業と良い関係を築き、協力して取り組む必要があると考えています。

特に産学連携を推進するため、地元京都においては立命館大学、同志社大学、京都大学に「ローム記念館」を寄贈し、包括的な産学共同研究の推進を図っています。

中国・清華大学と包括的産学連携による製品開発

ロームグループでは、米国や中国など海外でも産学連携を積極的に進め、先端知の研究や各地のニーズにこたえた製品の開発に取り組んでいます。

2006年4月には中国の清華大学と包括的産学連携契約を締結し、新原理(表面プラズモンセンサ)光素子の提案・検証や、中国デジタルTV規格用ICの実現などの実績を上げてきました。さらに、2010年より技術フォーラムを開催しており、2011年4月には清華大学の創立100周年を機会に、クリーンルームや国際会議場を有する「清華ローム電子工程館」を寄贈・開館しました。2012年より、同工程館において「清華-ローム国際産学連携フォーラム (TRIFIA)」を開催し、多くの来賓、学生、卒業生らでにぎわいました。本館7Fには共同研究体制の基盤となる「清華ローム共同研究センター」を設立し、従来のインターンシップ受け入れだけでなく、ローム社員が駐在することによって人的交流・異文化理解に基づく技術開発と社会貢献を活性化していきます。

現在、本センター組織を軸に、「光デバイス」、「通信・放送」、「バイオチップ」、「POCT(Point of Care Testing)」、「パワーデバイス&システム」などの分野において数多くの共同研究プロジェクトが開始され、今後一層の交流成果が期待されています。

2000年 4月 [立命館大学ローム記念館 開設]



2003年 9月 [同志社ローム記念館 開設]



2005年 5月 [京都大学ローム記念館 開設]



2011年 4月 [清華ローム電子工程館 開設]



学生への支援

CEATEC JAPAN 2012にて学生向け技術セミナーを開催

2012年10月に開催された最先端IT・エレクトロニクスの総合展である「CEATEC JAPAN 2012」のロームのブースにて、ロームの若手社員による学生に向けた技術セミナーを開催しました。当日は200名を超える学生に参加いただき、ロームの若きエンジニアから未来のエンジニアに向けて今後の展望や開発エピソードなどをお伝えしました。



学生向け技術セミナー 開催



文化・交流

音楽文化への貢献

若手音楽家の成長を支援

ロームでは、1965年の音楽書籍出版に始まり、1989年に開始したコンサートの開催・支援など、幅広い音楽支援活動を展開しています。

2000年からは、「若い音楽家を育てたい」という小澤征爾氏の熱い思いに賛同して開始した「小澤征爾音楽塾」公演への協賛も続けており、2012年度は、2013年3月27日に京都、3月30日に東京で公演された「オーケストラ・プロジェクトII」の若手音楽家への教育プロジェクトを支援しました。



「小澤征爾音楽塾」公演 (撮影 大窪道治)



公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

継続的に音楽文化の普及、発展に寄与することを目的に、1991年に設立した「公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション」は、音楽を学ぶ学生に対する奨学援助や、音楽活動の開催や助成などに取り組んでいます。2012年度は、事業費7億9,888万円のもと、96名の奨学生に対して総額2億2,740万円を給付しました。過去の奨学生の中には、榎本大進氏(ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団第1コンサートマスター)や下野竜也氏(読売日本交響楽団首席客演指揮者)など現在世界で活躍する音楽家が多数おられます。

2012年度には、新たにブログを開設し支援する若き音楽学生の活動の様子などを紹介しています。

また、プロ音楽家を育成するための「音楽セミナー」や、国際交流と若手音楽家育成を目的とした「京都・国際音楽学生フェスティバル」の開催、音楽に関する公演や研究などへの助成も行っています。



音楽セミナー 指揮者クラス (撮影 佐々木卓夫)



京都・国際音楽学生フェスティバル (撮影 佐々木卓夫)



地域との交流

工場見学の開催

マレーシアの生産拠点では地域の工業専門学校、高等学校の皆さまに対し、工場見学を定期的で開催しています。実際のモノづくりの現場を見ていただいたり、日系企業ならではの5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)の考え方について学んでいただくことで、拠点の取り組みに理解を深めていただき、地域社会に貢献し、親しまれる工場を目指しています。



工場見学の様子



感謝状を受賞



環境

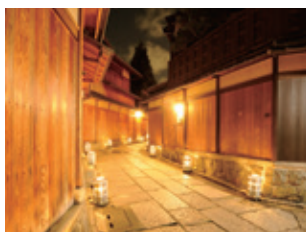
製品を通じた社会貢献

京都・花灯路へLEDを寄付

京都・花灯路では、露地行灯と道標行灯のすべてにロームの寄贈したLED照明が利用されています(2012年3月寄贈)。全国的に節電が求められる中、開催にあたって省エネや環境配慮が課題となっていました。ロームの高効率LED照明を使用することにより、行灯の消費電力は約1/6に削減されました。毎年3月・12月の2回、ロームのLED照明が京都の夜を彩っています。



京都・嵐山花灯路(竹林の小径)



京都・東山花灯路(石堀小路)



京都・東山花灯路(法観寺)

生物多様性への取り組み

カブトガニ生息保護地区での清掃活動に参加

岡山県笠岡市の生産拠点では、国の天然記念物に指定されているカブトガニの繁殖地となっている笠岡湾の清掃活動に参加しています。近年、多くの空き缶やペットボトル、紙クズなどが散乱し、繁殖に支障をきたしていることから、清掃活動を通じて生物多様性を守る環境づくりに取り組んでいます。



清掃活動の様子



フィリピン最大の湖での植林プロジェクトに参加



2013年2月、フィリピンの生産拠点ではフィリピン最大の湖であるラグナ湖での植林プロジェクトに参加しました。この活動はラグナ湖開発局と地元自治会との共同プロジェクトであり、今後2年間続く継続的なものです。今後も地域に根差した活動としての緑化・地球温暖化防止に取り組んでまいります。

ROHM Electronics
Philippines, Inc.
総務部
セクションチーフ

John Oliver Basco



ロームグループのCSR重点課題

- ① 高品質な製品の安定供給 ② 革新的な製品による社会的課題の解決 ③ グローバルな人材育成

ISO26000 中核主題		取り組みテーマ<①②③:対応する重点課題の番号>	2012年度目標・計画<*2020年度目標・計画>
組織統治	CSR マネジメント 体制の 維持・向上	CSR体制の強化 お客さまからのCSR監査への対応	<ul style="list-style-type: none"> ロームグループ国内外主要生産会社にCSR推進責任者を任命し、CSR推進委員会を設置する。 ロームグループ国内外主要生産会社でCSR内部監査を実施する。 CSR監査対応を強化し、指摘ゼロを目指す。
		国際的なイニシアティブ・ガイドライン に基づいたCSR活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 国連グローバル・コンパクト、ISO26000などに関する教育を実施する。
		安定供給のための事業継続マネジメント(BCM)体制の維持・向上 ①	<ul style="list-style-type: none"> BCPの見直しを行い、グローバルに展開する。
		品質マネジメントシステムの 維持・向上 ①	<ul style="list-style-type: none"> ISO9001に基づいたマネジメントシステムを維持・運用する。
		環境マネジメントシステムの 維持・向上	<ul style="list-style-type: none"> ISO14001に基づいたマネジメントシステムを維持・運用する。
		労働安全衛生マネジメントシステム の維持・向上	<ul style="list-style-type: none"> ロームと中国のロームグループ関係会社において認証を取得する。 他のロームグループ関係会社での認証取得を検討する。
		ステークホルダーダイアログの実施 労働・倫理のマネジメントシステム の構築	<ul style="list-style-type: none"> 多様なステークホルダーダイアログなどを検討する。 労働・倫理のリスクアセスメントのロームグループへの展開を検討する。
人権	ダイバーシティの推進/働きやすい職場環境の整備	人権の尊重	<ul style="list-style-type: none"> 「EICC基準」に準拠した契約書での契約再締結を進める。
		<ul style="list-style-type: none"> 世界の市場で活躍できる多様な人材(人種、性別を越えて)の確保。 法定障がい者雇用率1.80%を維持する(国内グループ) 多様な人材が活躍、継続就業できる制度の導入、運営、職場環境の構築。 	
労働慣行	安全で働きやすい職場環境の構築	グローバルビジネスを担う人材の育成 ③	<ul style="list-style-type: none"> 世界の市場を攻略できる人材の育成と体制の構築。 グローバル人材育成制度の運用を継続するとともに、新たな若手の海外研修制度の導入を行う。 グローバルグレーディングを導入、ロームグループ全体の標準化を推進する。
		<ul style="list-style-type: none"> 労働災害発生件数ゼロを目指し、労働安全衛生マネジメントシステムをスパイラルアップする。 	
環境	環境汚染物質の削減	拠点におけるCO ₂ 対策	<ul style="list-style-type: none"> CO₂排出量を2010年度実績より7%削減する。(<*25%削減(2005年度比)>) CO₂排出量原単位を2010年度実績より9%削減する。(<*50%削減(1990年度比)>) 温室効果ガス(PFCs、SF₆など)排出量を1995年度実績より43%削減する。(<*50%削減(1995年度比)>)
		バリューチェーンを通じたCO ₂ 対策 ②	<ul style="list-style-type: none"> バリューチェーンCO₂を把握するための仕組みを構築する。 売上高に占める環境配慮型製品の割合を60%にする。(<*100%>)
		資源の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> 海外連結で廃棄物排出量原単位を2010年度実績より2%削減する。(<*60%削減(2000年度比)>) 水の投入量を2010年度実績より2%削減する。(<*10%削減(2009年度比)>) 国内連結でゼロエミッションを維持し、廃棄物排出量原単位を4%削減する。
		環境コミュニケーションの推進	<ul style="list-style-type: none"> 環境学習授業を継続実施する。
		グリーン調達ガイドラインに則った化学物質管理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ガイドライン指定物質の不使用/使用量遵守を継続する。
公正な事業慣行	「ロームグループ行動指針」に基づいた公正な事業活動を推進	コンプライアンス体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> 「コンプライアンス強化月間」を、ロームグループ海外関係会社にも展開する。 階層別コンプライアンス研修を継続実施する。 ロームグループ海外関係会社でのコンプライアンス教育・啓発の支援を行う。 社員向け「リーガルラーニング」を展開する。 国連グローバル・コンパクト、ISO26000を踏まえた行動指針の改訂の検討を検討する。
		公正な競争・取引	<ul style="list-style-type: none"> EICCに準拠した「CSR活動自己評価表」をお取引先さまに配布して遵守状況を確認し、必要に応じて改善指導などを実施する。
		汚職・贈収賄の防止	<ul style="list-style-type: none"> 階層別研修などで贈収賄防止に関する教育を実施する。
		情報の保護・適切な管理	<ul style="list-style-type: none"> オンラインでの情報セキュリティトレーニングを継続実施する。 トレーニング受講者の理解度などを踏まえたコンテンツ充実を検討する。
消費者課題 (お客さまへの対応)	製品品質の確保 ①	<ul style="list-style-type: none"> 品質問題の徹底した分析と継続的な改善活動を実施する。 	
		お客さまから求められるニーズを的確に把握し、世界をリードする商品を開発 ②	<ul style="list-style-type: none"> SiCパワーデバイスなどの省エネ製品の販売活動を推進する。 「省エネ」などの社会課題解決に貢献する製品の開発を推進する。
		CSR調達に関する方針の浸透と徹底	<ul style="list-style-type: none"> BCMの観点も踏まえたCSR調達を推進する。
コミュニティへの参画およびコミュニティの発展	良き企業市民として社会の発展や健全化に貢献	音楽文化の普及・発展への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 音楽文化に関する支援を継続する。
		広く社会のニーズに対応した適切な寄付や賛助活動	<ul style="list-style-type: none"> 社会のニーズを捉えた適時・適切な寄付・賛助活動を継続する。
		地域社会からの要請に応じた活動	<ul style="list-style-type: none"> 継続して地域社会への支援、産官学連携の場の提供に努める。 NGO・NPOと協働による社会貢献活動を検討する。

ロームグループではISO26000に基づいたグローバルなCSRマネジメントを目指しています。そのために体制の強化を進めるとともに、ISO26000に準拠し、バリューチェーンを見渡して重点課題を析出し、取り組みテーマ、計画、目標を設定しています。

2012年度実績

評価

2013年度目標・計画

<ul style="list-style-type: none"> ・ロームグループ国内外生産会社20社にCSR推進責任者を任命し、CSR推進委員会を設置し活動を開始した。 ・ラビセセミコンダクタにCSR推進室を新設した。 ・ロームグループ国内外生産会社でCSR内部監査を実施した。(国内:4拠点、海外:3拠点) ・ロームグループ国内外生産会社でCSR統括内部監査を実施した。(国内:7拠点、海外:6拠点) ・CSR監査マニュアルを多言語化し、ロームグループ各社に展開した。(日、英、中、韓) ・EICC Ver.4に基づいたCSR統括内部監査チェックシートを作成、ロームグループへ展開した。 	<p>★★★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10月をCSR月間とし、ロームグループ全社一斉CSR内部監査を実施する。 ・CSR統括内部監査をロームグループ(2012年度未実施の国内4拠点、海外5拠点)において実施する。 ・CSR統括内部監査を継続実施するとともに、ロームグループの共通課題を分析し、対策を講じる。 ・お取引先さま、業務委託先さまに対し、EICC基準に基づくCSR監査を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ローム本社並びにロームグループ国内外生産会社でCSR研修を実施した。 ・ローム本社並びにロームグループ国内外生産会社でCSReラーニングを実施した。(本社、国内:6拠点、海外:2拠点) 	<p>★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2012年度にCSR教育を実施していない拠点で実施する。 ・2012年度にCSReラーニングを実施していない拠点で実施する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ローム本社 本社機能のBCPの全面改訂を7月に完了した。 ・本社機能のBCPを基に、国内外関係会社のBCPを12月までに作成完了した。 ・浜松の拠点の地震(6/26)、タイの拠点の洪水(10/12)、本社の地震(11/27)を想定した訓練を実施した。 	<p>★★★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・BCPの見直しを行い、教育訓練によって浸透を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・ISO9001マネジメントシステムをロームグループ全体で維持・運用を行い、ISO9001の認証およびISO/TS16949の認証を更新した。 	<p>★★★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ISO9001マネジメントシステムを継続して維持・運用する。 ※車載向け製品はISO/TS16949マネジメントシステムも維持・運用する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ISO14001マネジメントシステムをロームグループで維持・管理および運用するため、統括内部監査や自己監査を定期的実施した。 ・JQAによる更新審査を受け、ISO14001の認証を更新した。 	<p>★★★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ISO14001マネジメントシステムを継続して維持・運用する。
<ul style="list-style-type: none"> ・2013年3月に労働安全衛生マネジメントシステムであるOHSAS18001(2007)をローム本社が取得した。 	<p>★★★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ロームグループ海外生産拠点において、認証取得を進める。
<ul style="list-style-type: none"> ・ロームグループのCSR推進委員会において現地根拠に根差したステークホルダーダイアログを検討・実施した。 	<p>★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・政府機関/NPO/NGOとステークホルダーダイアログを開催し、常に社会課題を解決できる製品開発の促進を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・労働と倫理のリスクアセスメントチェックシートを作成し、一部の拠点から試験的に運用を開始した。 	<p>★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・労働・倫理のマネジメントレビューをロームグループに展開する。
<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルで80%超のお取引先さまと取引基本契約書の締結完了。 	<p>★★★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルで取引基本契約書の100%締結。
<ul style="list-style-type: none"> ・2013年度新入社員女性比率22%、外国籍社員比率7%と多様な人材の新規雇用を実現した。 ・社員相談室を4名体制とした。 ・障がい者雇用率2.00%以上を維持した。 ・新規に育児のための始業終業時間繰り上げ繰り下げ制度を導入した。 	<p>★★★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公正、透明な人事、給与制度を導入する。 ・グローバル人材を確保するため、インターンシップを拡充する。 ・社員の働きに報いる表彰制度を整備する。 ・勤務時間の柔軟化を図る制度を新規導入する。
<ul style="list-style-type: none"> ・語学教育を推進、英語でのプレゼンテーションセミナー、英語力UPのためのセミナーなどを開催した。 ・外部の英会話講師を招き企業内英語スクールを開校した。 ・若手の海外研修制度を導入し、11名が登録した。 ・グローバルゲーディングシステムを海外販売会社より順次導入中。 	<p>★★★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代リーダー研修を新規導入する。 ・昨年度導入の若手海外研修制度を拡大する。 ・グローバル研修、語学学習支援インフラを強化する。 ・ロームグループ全体の標準化を推進する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ローム本社休業災害「0」を18年連続で達成した。 ・ロームグループで、休業災害3件、不休業災害8件が発生した。(度数率:0.08、強度率:0.0002) 	<p>★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・労働災害発生件数ゼロを目指し、安全衛生管理を徹底する。
<ul style="list-style-type: none"> ・CO₂排出量は、2010年度実績より17.3%削減した。 ・CO₂排出量原単位は、2010年度実績より16.9%削減した。 ・温室効果ガス(PFCs、SF₆など)排出量は、1995年度実績より67.8%削減した。 	<p>★★★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CO₂排出量を、2012年度実績より1%削減する。 ・CO₂排出量原単位を、2012年度実績より1%削減する。 ・温室効果ガス(PFCs、SF₆など)排出量を、2012年度実績より1%削減する。
<ul style="list-style-type: none"> ・バリューチェーンCO₂を把握するための仕組みをほぼ構築済み。 ・売上高に占める環境配慮型製品の割合は、51%となった。 	<p>★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・GHGプロトコルのスコープ1,2に対応し、バリューチェーンCO₂を把握するための仕組みを構築する。 ・GHGプロトコルのスコープ3に準じた温室効果ガス算出を検討し、運用モデルを策定する。 ・売上高に占める環境配慮型製品の割合を60%にする。
<ul style="list-style-type: none"> ・PRTR対象物質取扱量原単位は、2010年度実績より19.5%削減した。 ・VOC排出量は、2000年度実績より38.5%削減した。 	<p>★★★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PRTR対象物質取扱量原単位を、2012年度実績より1%削減する。 ・VOC排出量を、2012年度実績より1%削減する。
<ul style="list-style-type: none"> ・海外連結で廃棄物排出量原単位は、2010年度実績より19%削減した。 ・水の投入量は、2010年度実績より9.8%削減した。 ・国内連結でゼロエミッションを維持した。廃棄物排出量原単位は、19.5%削減した。 	<p>★★★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・海外連結で廃棄物排出量原単位を、2012年度実績より1%削減する。 ・水の投入量を、2012年度実績より1%削減する。 ・国内連結でゼロエミッションを維持し、廃棄物排出量原単位を2012年度実績より1%削減する。
<ul style="list-style-type: none"> ・京都市内の小学校5校において、トータル12回の環境学習事業を実施した。 	<p>★★★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関係部門と連携し、さらなる活性化を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・不使用/使用量遵守を継続した。 	<p>★★★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドライン指定物質の不使用/使用量遵守を継続する。
<ul style="list-style-type: none"> ・5月を「コンプライアンス強化月間」とし、ロームグループ海外関係会社にも展開した。 ・新入社員へ新任管理職へのコンプライアンス研修を継続実施した。 ・ロームグループ海外関係会社でのコンプライアンス教育ツールを製作し、展開した。 ・社員向け「リーガルラーニング」により、情報管理、著作権法の教育を実施した。 ・国連グローバル・コンパクト、ISO26000を踏まえた行動指針の改訂の検討に着手した。 	<p>★★★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CSR月間の中でロームグループ海外関係会社を含め全社で教育・啓発活動を継続して展開する。 ・社員向けにコンプライアンスや法令などを解説した「法務ガイドブック」を活用し、ロームおよびロームグループ国内関係会社で教育・啓発活動を展開する。 ・国連グローバル・コンパクト、ISO26000を踏まえ、行動指針の改訂を行う。 ・階層別コンプライアンス教育を継続実施する。 ・社員向け「リーガルラーニング」を継続展開する。 ・ロームグループ海外関係会社でのコンプライアンス教育ツールを使用した教育・啓発活動を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルでお取引先さまにCSR自己評価を実施いただいた。 ・自己評価結果により、必要に応じて改善活動を実施した。 	<p>★★★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CSR調達ガイドライン配布およびセルフ・アセスメント・ツールの内容充実と定着。 ・評価結果に応じてCSR監査の開始。
<ul style="list-style-type: none"> ・階層別研修の中で、贈収賄防止に関する教育を実施した。 	<p>★★★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・階層別研修などでの贈収賄防止に関する教育を継続実施する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ロームの全社員を対象とした第3回オンラインセキュリティトレーニングを実施した。 	<p>★★★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティレベルの継続的な向上に向け、ISO27001(情報セキュリティマネジメントシステム)の認証取得を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・過去の品質問題をあらゆる角度から細かく分析することで問題の真因を明らかにし、二度と同じ品質問題が起きないように対策を講じるとともに、予防処置を含めた継続的な活動を実施した。 	<p>★★★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新製品の設計品質のさらなる向上と品質問題の徹底した分析、継続的な改善活動を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ローム本社のCSR掲示板/社内イントラネットを通じて社員にSiCパワーデバイスについて周知した。 	<p>★★★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ロームの全部門長に対し、Creating Shared Valueの勉強会を実施する。 ・政府機関/NPO/NGOとステークホルダーダイアログを開催し、常に社会課題を解決できる製品開発の促進を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・ロームのウェブサイト/CSRウェブサイトのニュースを通じて社外にSiCパワーデバイスについて紹介した。 ・お取引先さまに対し、BCPに関する諸項目の調査と改善依頼を実施した。 ・インベシジョンレポートによるCSR調達を広報した。 	<p>★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CSR調達ガイドライン配布およびセルフ・アセスメント・ツールの内容充実と定着。 ・お取引先さまとCSR調達に関して相互理解を深める諸活動の実施。
<ul style="list-style-type: none"> ・地元京都の京都市交響楽団演奏会ほか、多くのコンサートへの協賛を実施した。 ・公益財団法人ローム ミュージック ファンデーションの事業を支援した。 	<p>★★★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽文化に関する支援を継続する。
<ul style="list-style-type: none"> ・京都府の命名権取得を通じて、京都府の再整備を支援した。 ・京都サンガF.C.や京都学生祭典のスポンサー企業として地域に貢献した。 	<p>★★★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会のニーズを捉えた適時・適切な寄付・賛助活動を継続する。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への支援を継続実施した。 ・清華大学へローム記念館を寄贈した。また、大学への奨学金を設立した。 ・ありがと本活動を通じて東日本大震災の被害者支援NPO法人キッズドアに寄付を実施した。 	<p>★★★★</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して地域社会への支援、産官学連携の場の提供に努める。 ・社員参加型のモノづくり授業を実施する。 ・東日本大震災の復興支援を継続実施する。

評価基準: ★★★★★ 目標・計画を達成 ★★★★★ 目標・計画と実績に軽微なずれが生じた ★★★★★ 目標・計画と実績に大幅なずれが生じた

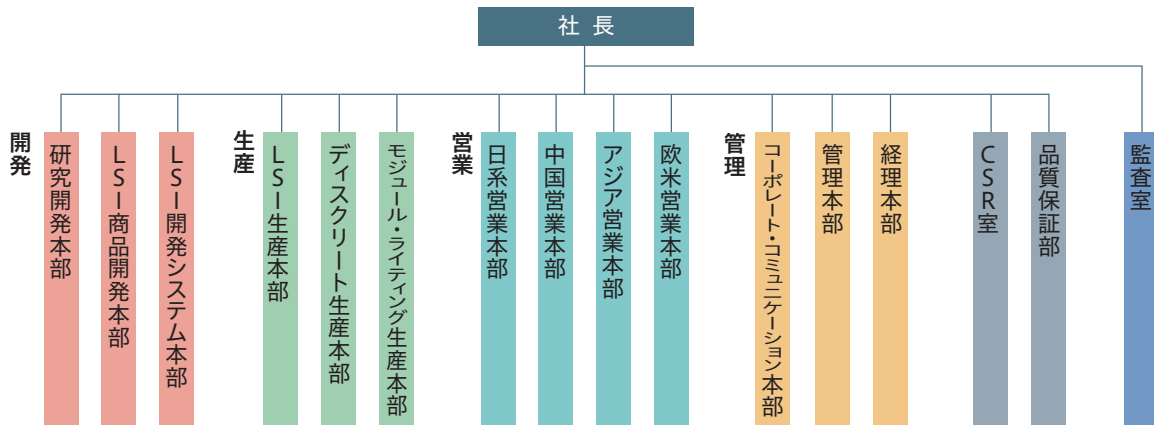
経営品質の革新

CSRの目標・計画と実績

会社概要

商号	ローム株式会社 / ROHM Co., Ltd.	代表者	代表取締役社長 澤村 諭
本社所在地	〒615-8585 京都市右京区西院溝崎町21 TEL (075)311-2121 FAX(075)315-0172	資本金	86,969百万円(2013年3月31日現在)
設立年月日	1958(昭和33)年9月17日	売上高	連結 292,410百万円(2013年3月期)
		社員数	連結 20,203名(2013年3月31日現在)

会社組織図



ロームグループ主要拠点

〈Japan〉

● 営業拠点

日系営業本部			
京都	TEL:(075)365-1077	松本	TEL:(0263)34-8601
東京	TEL:(03)6280-0820	水戸	TEL:(029)300-0585
横浜	TEL:(045)476-2121	西東京	TEL:(042)648-7821
名古屋	TEL:(052)581-8521	仙台	TEL:(022)295-3011
福岡	TEL:(092)483-3496	高崎	TEL:(027)310-7111
広島	TEL:(082)423-8153		
中国営業本部	TEL:(075)311-2121		
アジア営業本部	TEL:(075)311-2121		
欧米営業本部	TEL:(075)311-2121		

● 生産拠点

ローム浜松株式会社	TEL:(053)468-1000
ローム・ワコー株式会社	TEL:(0865)67-0111
ローム・アポロ株式会社	TEL:(0943)32-3000
ローム・メカテック株式会社	TEL:(0771)25-4717
ラピスセミコンダクタ株式会社	TEL:(045)476-9212
ラピスセミコンダクタ宮城株式会社	TEL:(022)345-1211
ラピスセミコンダクタ宮崎株式会社	TEL:(0985)85-5111
アグレッド株式会社	TEL:(072)770-8060

● 開発拠点

京都テクノロジーセンター(本社)	TEL:(075)311-2121
京都テクノロジーセンター(京都駅前)	TEL:(075)365-1073
横浜テクノロジーセンター	TEL:(045)476-2131
名古屋デザインセンター	TEL:(052)581-0185

物流・その他拠点

ローム・ロジステック株式会社	TEL:(0865)44-3181
成田技研株式会社	TEL:(06)6433-0410



<Global>

● 主要営業拠点

- ASIA ROHM Semiconductor Korea Corporation
TEL: +82-2-8182-700
- ROHM Semiconductor Trading (Dalian) Co., Ltd.
TEL: +86-411-8230-8549
- ROHM Semiconductor (Shanghai) Co., Ltd.
TEL: +86-21-6072-8612
- ROHM Semiconductor (Shenzhen) Co., Ltd.
TEL: +86-755-8307-3008
- ROHM Semiconductor Hong Kong Co., Ltd.
TEL: +852-2740-6262
- ROHM Semiconductor Taiwan Co., Ltd.
TEL: +886-2-2500-6956
- ROHM Semiconductor Singapore Pte. Ltd.
TEL: +65-6332-2322
- ROHM Semiconductor Philippines Corporation
TEL: +63-2-807-6872
- ROHM Semiconductor (Thailand) Co., Ltd.
TEL: +66-2-254-4890
- ROHM Semiconductor Malaysia Sdn. Bhd.
TEL: +60-3-7958-8355
- ROHM Semiconductor India Pvt. Ltd.
TEL: +91-44-4352-0008
- AMERICA ROHM Semiconductor U.S.A., LLC
TEL: +1-858-625-3600
- ROHM Semiconductor do Brasil Ltda.
TEL: +55-11-3539-6320
- EUROPE ROHM Semiconductor GmbH
TEL: +49-2154-921-0

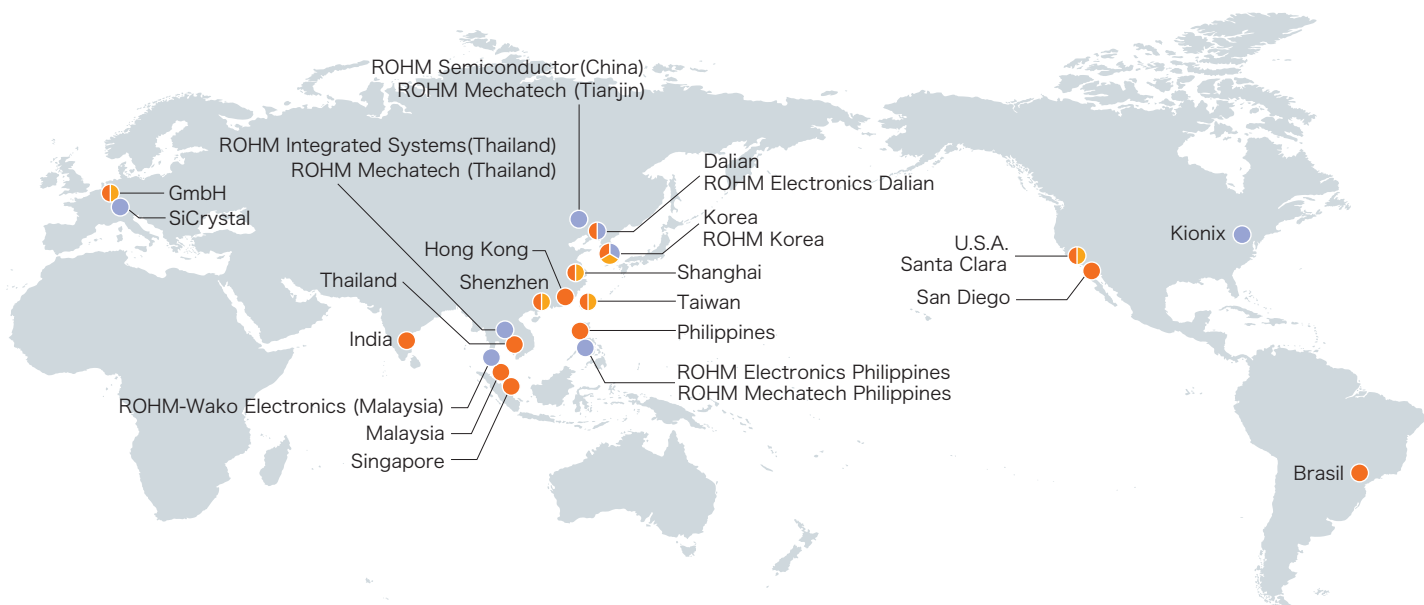
● 生産拠点

- ASIA ROHM Korea Corporation
TEL: +82-2-8182-600
- ROHM Electronics Philippines, Inc.
TEL: +63-2-894-1536
- ROHM Integrated Systems (Thailand) Co., Ltd.
TEL: +66-2-909-7100
- ROHM Semiconductor (China) Co., Ltd.
TEL: +86-22-8398-9000
- ROHM Electronics Dalian Co., Ltd.
TEL: +86-411-8762-0001
- ROHM-Wako Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd.
TEL: +60(9)7741500
- ROHM Mechatech Philippines, Inc.
TEL: +63-46-430-2281
- ROHM Mechatech (Thailand) Co., Ltd.
TEL: +66-2-908-7271~5
- ROHM Mechatech (Tianjin) Co., Ltd.
TEL: +86-22-2388-8585
- AMERICA Kionix, Inc.
TEL: +1-607-257-1080
- EUROPE SiCrystal AG
TEL: +49-911-8177599-0

● 開発拠点

- ASIA Korea Design Center TEL: +82-2-8182-695
- Shanghai Design Center TEL: +86-21-6072-8612
- Shenzhen Design Center TEL: +86-755-8307-3008
- Taiwan Design Center TEL: +886-2-2500-6956
- AMERICA America Design Center (San Diego)
TEL: +1-858-625-3660
- America Design Center (Santa Clara)
TEL: +1-408-720-1900
- EUROPE Europe Design Center TEL: +49-2154-9210

● 主要営業拠点
● 生産拠点
● 開発拠点





www.rohm.co.jp

